

寄贈

調 査 資 料

昭 和 三 年 六 月

第 九 卷 第 三 號



英 國 電 氣 (供 給) 法

電 氣 供 給 關 係 法 律 ノ 修 正 法

東 京 市 庶 務 課 調 査 掛

(以 印 刷 代 替 寫 禁 無 斷 轉 載)

昭 和 三 年 六 月 一 日



始



世界に於ける電気事業の著しき發達は、こゝに多言を要しないであらうが、電気供給事業の分野に於て最近その統制問題に關し、各國が慎重なる調査研究を遂げつゝあることは、周知の事實である。しかるに英國は已に一九二六年、電気(供給)法を制定し、現在これを施行して、電気供給事業の統制を期して居ることは、時節柄極めて興味ある問題でなければならぬ。

本文は、右の電気(供給)法的全譯であつて、この問題の解決資料として、参考に供する次第である。

英國電氣(供給)法

電氣供給關係法律ノ修正法

中央電氣局ノ組織及ヒ其ノ權限

第一節 中央電氣局ノ組織……………一〇

第二節 局ノ一般權利及ヒ義務……………一〇

第三節 技術諮問委員ノ任命……………一一

企畫ニ關スル規定

第四節 企畫ノ調製及ヒ遂行……………一一

第五節 既設指定發電所……………一五

第六節 新設指定發電所……………一七

第七節 指定發電所所有者ノ權利義務……………一八

第八節 送電幹線路ノ建設及ヒ買收……………二〇

第九節 周波數ノ統一……………二一

第十節 局ノ公許事業者ニ對スル給電義務……………二三

第十一節 局ノ公許事業者へ直接供給スル電氣ノ料金……………二七

第十二節 間接大口供給ノ料金……………二八

第十三節 指定發電所所有者ニ對シテ課セラルヘキ料金ノ制限……………二八

第十四節 一定ノ場合ニ於テ指定發電所ヲ閉鎖セシメ得ルノ權利……………二九

第十五節 解雇ニ對スル報償……………三一

第十六節 公許事業者ノ權利……………三二

第十七節 發電所又ハ送電幹線路ノ局ニヨル買收ノ從屬規定……………三三

第十八節 同意ヲ得ルコトノ必要ニ對スル省略……………三四

第十九節 倫敦ニ關スル特別規定……………三四

局ニ關スル補助規定

第二十節 電氣供給法ノ局ヘノ適用……………三五

第廿一節 局ニヨル土地ノ買收……………三六

第廿二節 協定ニヨル局ノ送電幹線路使用權……………三八

第廿三節 餘剩電氣ヲ購入スル局ノ權利……………三八

第廿四節 政府測候所等ノ障害妨止……………三八

第廿五節 年報、統計及ヒ報告……………三九

財政諸規定

第廿六節 局ノ經費……………四〇

第廿七節 局ノ資金借入權……………四〇

第廿八節 證券發行ノ權利……………四二

第廿九節 局發行證券ニ對スル大藏省ノ保證權……………四三

第卅節 會計及ヒ會計檢査……………四四

雜 則

第卅一節 動力會社ノ供給電氣ニ對スル料金……………四五

第卅二節 料金ト配當トノ關係…………… 四六

第卅三節 地方當局並ニ其他職員ノ停年法ノ採用…………… 四七

第卅四節 電氣線路ノ妨害ヲナス樹木並ニ生垣ノ伐採權…………… 四七

第卅五節 州橋梁ノ保護…………… 四九

電氣供給法ノ修正

第卅六節 電氣區域ノ組成並該區域内ノ供給組織ニ對スル企畫…………… 五一

第卅七節 企畫ノ内容…………… 五二

第卅八節 企畫ノ修正…………… 五二

第卅九節 大供給地域ヲ有セル會社ニ關スル規定…………… 五三

第四十節 大口供給ヲ取ル會社ノ買收條件…………… 五五

第四十一節 協定ニヨル買收條件變更ノ權利…………… 五六

第四十二節 料金ノ方法…………… 五六

第四十三節 一八九九年電燈法附則ノ修正…………… 五七

第四十四節 一九一九年電氣(供給)法…………… 五八

第四十五節 兩接續費ノ回收權…………… 五九

第四十六節 鐵道其他ニヨル電氣供給…………… 五九

第四十七節 鐵道會社其他ヘノ電氣供給…………… 六〇

第四十八節 附屬品ノ販賣…………… 六一

第四十九節 瓦斯事業者ニ關スル特別規定…………… 六三

第五十節 雜修正…………… 六四

總 則

第五十一節 字句ノ解釋…………… 六四

第五十二節 單稱、構成及ヒ範圍…………… 六六

附 則

中央電氣局ノ組織及ヒ其ノ一般權限

第一節 中央電氣局ノ組織

第一條 本法ノ目的上、本法ノ通過シタル後、可及的迅速ニ、中央電氣局（以下本法ニ於テハ單ニ局ト呼フヘシ）ヲ設置スヘシ
 局ハ、左ノ者ヲ以テ組織ス

理事長 一名
 理事 七名

右ノ者ハ、交通大臣カ妥當ト認メタル左記各種ノ事業、即チ地方自治、電氣、商業、工業、交通、農業及ヒ勞働ノ代表及ヒ團體ト協議ノ上、大臣自ラノ任命スルモノトス

第二條 衆議院ノ議員タル資格ヲ保持スルモノハ、理事長又ハ理事ニ任命サル、コトヲ得ス

第三條 理事長及ヒ理事ハ、ソノ任期中ニ於テ、本法ノ規定ニ準據シ、ソノ責務ヲ誠心誠意ヲ以テ遂行スヘシ

理事長及ヒ理事ハ、ソノ任命ノ日ヨリ三ヶ月以内ニ、電氣供給事業會社又ハ發電所或ハ送電線ニ必

要ナル機械ノ製造又ハ販賣ヲナセル會社ノ有價證券ヲ、自己ノ名義又ハ自己ノ利益ノタメニスル他人ノ名義ニヨリテ保持スルトキハ、之ヲ賣却スヘシ

理事長又ハ理事ハソノ任期中ニ於テ、前項會社ノ有價證券ヲ、自己ノ利益ノタメニ購入スルコトヲ得ス

理事長又ハ理事カ、遺言、又ハ繼承ニヨリテ前項會社ノ有價證券ヲ、自己ノ利益ノタメニ、取得シタルトキハ、ソノ取得ヲナスニ至リタル日ヨリ三ヶ月以内ニ、之ヲ賣却スルヲ要ス

第四條 理事長又ハ理事ニシテ、局カ契約ヲ締結シ又ハ締結ナサントスル會社ニ對シ、利害關係ヲ有スルトキハ、該理事長又ハ理事ハ局ニ對シソノ事實ト利害關係ノ性質トヲ開陳シ、局カ該契約ニ關シテ取ルヘキ協議又ハ決議ニ參與セサルコトヲ要ス

前項ノ開陳ハ、局ノ議事録中ニ、之ヲ記録スヘシ

第五條 理事長又ハ理事ニシテ、失格シ、又ハ交通大臣カ是認シタル以外ノ事由ニ基キ、引續キ六ヶ月以上、局ノ會議ニ列席セサリシトキ、或ハ本節前條ノ規定ニ違反シタルトキハ、交通大臣ハ、該理事長又ハ理事ノ缺員トナレルコトヲ宣シ、且適當ナル方法ヲ以テ之ヲ公示スヘシ、然ルトキハ、該理事長又ハ理事ノ職席ハ缺如トナルヘシ

第六條 局ハ法人トス

局ハ土地ヲ何等ノ免許ナクシテ永代所有スヘキ權限ヲ有ス、局ハ、ソノ行動ヲ、局自身ニ於テ取締ルヘキ權限ヲ有ス

但シ、局ノ議決ハ、全員ノ三分ノ一以上タルコトヲ要ス

第七條 局ハ、ソノ理事ニ缺員アル場合ト雖、ソノ行動ヲ妨ケラル、コトナジ

第八條 理事長又ハ理事ノ任期ハ、五ケ年以上十ケ年以下トシ、大臣カソノ任命前ニ於テ定メタル所ニヨル

第九條 局ハ一名ノ書記及ヒ局ニ於テ必要トスル員數ノ職員及ヒ雇員ヲ雇傭スヘシ、局ハソノ理事者ニ對シテハ交通大臣ノ定ムル所ニ基キ、俸給、或ハ報酬及ヒソノ出費ノ手當ヲ支給ス、局ノ書記、職員及ヒ雇員ニ對シテハ、局ノ定ムル所ニ基キ、俸給、報酬、退職年金、弔慰金ヲ支給ス

前項ノ支拂ハ、總テ本法ノ下ニ於テ設定セラレタル局ノ資金中ヨリ之ヲナスヘシ

第十條 局ハ、法人ノ印章ヲ有ス

局ノ印章ハ、理事長又ハ理事ニシテ、局カソノ代理權ヲ附與シタルモノ、署名並ニ書記長又ハ其他ノ者ニシテ局カソノ代理權ヲ附與シタル者ノ署名ニヨリ確證セラルルモノトス

第十一條 局ノ發スル命令又ハ書類タルヘキ一切ノ文書ハ、本條ノ規定ニ準據シ、局ノ印章ヲ捺印シ

或ハ書記又ハソノ代理者ノ署名ヲ受ケタルモノハ、ソノ反證ナキ限り、總テ眞實ナルモノトシテ、受理セラレ、且局ノ命令又ハ書類タルヘキモノト認定サルヘシ

第二節 局ノ一般權利及ヒ義務

第一條 局ハ本法ノ規定ニ準據シ、公許事業者ニ對シ電氣ノ供給ヲナスヘキ義務ヲ有ス

但シ本法ニ於テ、明文ヲ以テ規定セル場合ヲ除キ、局ハ自ラ發電業務ヲ行フヘキ權限ヲ有セス
局ノ其他ノ權利及ヒ義務ニ付テハ、本法ニ於テ定メタル所ニヨル

第二條 本法ノ下ニ於テ局ノ有スル權限ニシテ、之ヲ地方的ニ行使スルヲ以テ便宜ナリト認メタルトキハ、之ヲ公許事業者ニ委任スルコトヲ得

第三條 本法ノ定ムル所ニヨリ、企畫執行地域ト定メラレタル地域内ニ於テ、本法ニヨリ指定發電所トナリタル發電所ノ所有者ヨリナル組合カ、該地域ニ於ケル局ノ權利義務ヲ自ラ代行センコトヲ、局ニ對シテ提案ナセシ場合ニ於テ、局カ該組合ヲ以テ、是等ノ權利義務ヲ遂行スルニ適當ナル團體ト認メタル時ニ限り、局ハ、該提案ニ應スルモノトス、但シ局ノ一般義務ノ有效ナル履行又ハ該地域ニ於ケル企畫ノ有效ナル遂行ニ對シ、何等ノ關係ヲ及スコトナクシテ、該提案ニ應シ得ヘキモノト局カ思惟シタル場合ニ限ル、尙此ノ場合、局ハ適當ト認メタル條件ヲ附帶スヘシ

第四條 局ハ、指定發電所所有者ノ同意ヲ得スシテ該發電所ニ關シ局ノ有スル何ラノ權利ヲモ委任スルヲ得ス、尙局ハ、本法ニヨリテ附與セラレタル企畫採用權又ハ料金決定權ヲ委任スルコトヲ得ス

第三節 諮問技術委員ノ任命

第一條 局ハ、本法ニヨリテ一時指定發電所トナレル發電所ノ事業ニ關シ雇傭セラレタル技師ノ中ヨリ一名若クハ數名ノ諮問技術委員ヲ任命スルコトヲ得

第二條 諮問技術委員ハ局ノ附議セル事項ニ關シ、助言ト助力ヲ與フヘシ、此ノ目的ノタメ、局ノ指定スル所ニ從ヒ隨時會合ヲナスヘキモノトス

企畫ニ關スル規程

第四節 企畫ノ調製及ヒ遂行

第一條 電氣委員ハ可及的迅速ニ各特定地域ニ關シ、左記各別ニ亘ル企畫ヲ調製シ且ツ之ヲ局ニ送達スヘシ

第一項 何レノ發電所（既設タルト新設タルトヲ問ハス）ヲ以テ、局ノ目的ノタメニ、發電スヘキ發電所（本法ニ於テハ、以下指定發電所ト呼フ）トナスカノ決定

第二項 局ヲシテ、送電幹線路ヲ建設又ハ買収セシメ、指定發電所相互ノ接続ヲ圖リ、且ツ指定發電所ト公許事業者ノ系統トヲ接続セシムルタメノ規定、或特定地域ニシテ既ニ企畫ノ適用ヲ受ケタル場合ニ於テハ、ソノ地域内ニ於ケル局ノ系統ト其他ノ地域ニシテ、其當時企畫ノ適用ヲ受ケタル地域、又ハ將來企畫ノ適用ヲ受ケヘキ地域内ノ局ノ系統トヲ前項ノ送電幹線路ニヨリテ接続スルタメノ規定

第三項 前項ノ接続ヲ目的トスル提案ノ實施ニ必須ナルヘキ周波數ノ統一

第四項 局ト發電所（公許事業者タルト否トヲ問ハス）所有者トノ間ニ於テ、送電受電及ヒ發電所（指定發電所タルト否トヲ問ハス）ノ作業ニ關シ、一時的協定（企畫ニ規定セラレタル工事ノ遂行期間中有效）ヲ締結セシメ、又ハコレカ締結ヲ要求スルコト

第五項 前項ノ目的ヲ遂行スルニ付キ、必要又ハ便宜アルヘキ補則、附隨規定、及ヒ必從規定ノ制定

但シ本法通過ノ日ニ於テ、鐵道會社ノ運轉セル鐵道發電所、又ハ本法通過ノ日ニ於テ、運河事業、國內海運業、船渠又ハ港灣業ニ屬シ、ソノ所有者ニヨリテ運轉セラル、發電所又ハ自家用發電所

ハ、ソノ所有者ノ同意ヲ得スシテ、之ヲ指定發電所トナシ、企畫中ニ包含スルコトヲ得ス、尙前項發電所ノ所有者ハ、企畫ノ下ニ於テ、一時的協定ヲナスヘキ義務ヲ負フコトナシ、前項各事業ニ屬スル送電幹線路又ハ自家用發電所ニ屬スル送電幹線路ハ、如何ナル企畫ノ下ニ於テモ、ソノ所有者ノ同意ヲ得スシテ、之ヲ買収シ得ルノ權限ヲ設定スルコトヲ得ス

第二條 局ハ總テノ企畫ヲ公表シ、該企畫ニ對スル提議申立期間（企畫公示ノ日ヨリ一ヶ月ヲ下ラサル期間）ヲ公示スヘシ、公許事業者並ニ之ト利害關係ヲ有スル其他ノ者ハソノ期間内ニ於テ、該企畫ニ對シ、種々ノ提議ヲナスコトヲ得、局ハ、該企畫並ニ之ニ對スル前項ノ提議ヲ審查シ且局ニ於テ必要ト認メタル質疑ヲナシタル後、該企畫ニ何ラノ修正ヲ加ヘス若クハ適當ト認メタル修正ヲ加ヘ、之ヲ該企畫中ニ規定セラレタル地域全般ニ對シテ、若クハソノ一部分ノミニ對シテ、適用スルヲ得ヘシ、斯ノ如クシテ、局ノ採用シタル企畫ハ之ヲ公示スルヲ要ス、企畫カ前項地域ノ一部分ニ對シテノミ適用サレタル場合ニハ、後日、該地域ノ他ノ部分ニ對シテモ、コレヲ適用スルヲ得ヘシ

第三條 前述ノ如クシテ企畫カ採用サレ且ツ該企畫中ニ規定サレタル地域全般若クハソノ一部分ニ對シテコレカ適用サル、コトヲ公示シタル時ハ、局ハ、即時、ソノ地域全般ニ亘リ若クハソノ一部分ニ於テ該企畫ヲ遂行シ且ツソノ效果ヲ生セシムヘキ義務ヲ有ス

但シ、右ノ企畫ニヨリ義務ヲ負ハシメラレタル公許事業者カ、ソノ義務ノ遂行ヲ以テ、自己ニトリテ不利益ナルモノト思惟シタル場合ニ於テハ、該事業者ハ、該企畫ノ採用ヲ公示サレタル日ヨリ一ヶ月以内ニ、文書ヲ以テ、ソノ不服ノ性質並ニソノ要求スル救済ノ性質ヲ明記シ、之ヲ局ニ送達シ局ニ要求シテ、該事件ヲ辯護士(蘇格蘭士ニテハ、advocate (辯護士))ノ仲裁ニ附議スルコトヲ得、但シ、該辯護士ハ、裁判官ニ任命サル、資格アルモノニシテ、且ツ大法官及ヒ蘇格蘭士大審院長カ各自此ノ目的ノタメニ調製セル名簿中ヨリ、交通大臣ノ任命セルモノトス、局ハ該事業者ノ要求スル所ニ從ヒ、該事件ヲ前項辯護士ノ仲裁ニ附議スルヲ要ス、但シ、局ニ於テ、該事業者ノ不服トスル義務ヲソノ企畫中ヨリ削除シ、以テ該事業者ヲ救済スル場合ハ此ノ限りニ非ス

尙局ハ、前記不服申立ノ件未決中ニ於テハ、該不服申立人タル事業者ニ影響ヲ與フル限り、ソノ企畫ヲ遂行スルコトヲ得ス、但シ、該不服ニシテ、金錢賠償ニヨリテ救済シ得ルモノタル場合ハ、此ノ限りニ非ス

第四條 前條ノ如キ事件ヲ附議サレタル仲裁官ハ、便宜ト認メタル場合ハ、一名若クハ、其以上ノ資格アル鑑定官ノ助力ヲ求ムルコトヲ得、而シテ、右鑑定官ノ助力ヲ以テ、該事件ノ全部若クハ一部ヲ審問スルコトヲ得、ソノ結果該仲裁官ニシテ、不服ノ正當ナルコトヲ認メタル場合ハ、ソノ不服ヲ申立テタル者ニ對シ、總テノ場合ヨリ見テ衡平ナリト思惟スル金錢賠償ノ履行ヲ局ニ命シ、又ハ

該企畫ノ修正ヲ命スルコトヲ得

但シ仲裁官カ金錢賠償以外ノ救済ヲ許可セントスル場合ニ於テ、該救済カ企畫ノ根本原則ニ抵觸シ若クハ企畫ノ效果ヲ不當ニ害スルモノナルコトヲ局ニ於テ立證シタル時ハ、仲裁官ハ、該救済ヲ許可スルコトヲ得ス

第五條 原企畫ハ、之ヲ同様ノ方法ニヨリテ作製サレ且ツ採用サレタル企畫ヲ以テ隨時之ヲ改變若クハ擴張スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ、原企畫ト同様ノ抗告權ヲ留保ス

但シ、企畫中ニ指定發電所トシテ包含サレタル發電所ハソノ所有者ノ同意ヲ得スシテ、ソノ指定發電所タルコトヲ廢止スルヲ得ス

第五節 既設指定發電所

第一條 局ハ、本法ノ規定ニヨリテ運轉セラルヘキ發電所並ニ企畫ニヨリテ要求セラルヘキ發電所ノ擴張及ヒ改變並ニ局カ隨時電氣委員ノ認可ヲ以テ指令スヘキ發電所ノ追加擴張及ヒ改變ニ際シテハ企畫ニヨリテ指定發電所トセラレタル既設發電所ノ所有者ト協定ヲ遂クルコトヲ要ス、但シ指定發電所ノ所有者ニシテ、局カ之ニ對シテ指令シタル發電所ノ追加擴張若クハ改變ヲ以テ過當ナル財政負擔ヲ課スルモノナリト思惟シタル場合ハ、該所有者ノ要求ニ從ヒ本法第四節ニ規定セル適當ナル

名簿中ヨリ交通大臣ノ任命セル辯護士（蘇格蘭士ニテハ advocate 辯護士）ノ仲裁ニ之ヲ附議スヘキモノトス、仲裁官ニ於テ便宜ナリト認メタル場合ハ一名若クハ其以上ノ資格アル鑑定官ノ助力ヲ求め、ソノ鑑定官ノ助力ニヨリテ該事件ノ全部又ハ一部ヲ審問スヘシ

第二條 指定既設發電所ノ所有者ニシテ前條ノ協定ヲナスコトヲ欲セス若クハ該協定ヲ局ノ満足スル程度ニ於テ履行ナササルトキハ、交通大臣ハ局ノ是認セル公許事業者又ハ其他ノ會社又ハ個人（或ハ斯ノ如キ公許事業者又ハ其他ノ會社又ハ個人ヲ得ルコト能ハサリシトキハ）局自身ニ對シ、ソノ命令ヲ以テ、本法第一附則ノ規定ニ於テ、決定シタル價格ニヨリ、該發電所ヲ買收シ得ルノ權利ヲ附與スルコトヲ得

但シ、前項ノ發電所カ電氣聯合局ノ統轄スル電氣區域内ニ在ルトキハ、該電氣聯合局ニ對シ、他ニ優先シテ之ヲ買收スヘキ機會ヲ與フルコトヲ要ス

前項公許事業者又ハ會社又ハ個人、若クハ局カ、前項ニヨル價格ヲ支拂ヒタルトキ又ハコレカ提供ヲナシタルトキハ交通大臣ハ、前項ノ發電所ヲ之ニ歸屬セシムル命令ヲ下スコトヲ得

但シ本條ノ規定ニヨリテ發セラルル發電所買收權附與ノ命令ハ、議會開期中、三十日ヲ下ラサル期間、議會兩院ニ提出サレタル後ニ非ラサレハ、其ノ效力ヲ生セサルモノトス、而シテ該期間終了前ニ於テ何レカノ議院カ、陛下ニ對シ、奉答文ヲ提出シタル時ハ、前記ノ命令ニ關シ議事ヲ進ムルコトヲ得ス

トヲ得ス

第三條 局カ本章ノ規定ニヨリテ發電所ノ買收ヲナス場合ニ於テハ、局ハ企畫ノ要求スル、若クハ局ニ於テ適當ト認メタル擴張、又ハ改變ヲ該發電所ニ對シテ行フコトヲ得、局ハ該發電所ヲ自ラ運轉シ若クハ公許事業者又ハ其他ノ會社又ハ個人ト協定ヲナシ、コレカ運轉ヲナサシムルコトヲ得但シ局ハ公許事業者又ハ其他ノ會社又ハ個人ト、合理的條件ヲ以テ、該發電所ノ運轉協定ヲナシ能ハサルコトニ付キ電氣委員ヲ満足セシメタル場合ニ非ラサレハ、局自ラコレカ運轉ヲ行フコトヲ得ス、該發電所カ電氣聯合局ノ統轄セル電氣區域内ニ在ル場合ニ於テハ、局ハ他ニ優先シテ該電氣聯合局ト協定ヲ遂ケ該聯合局ヲシテ、之ヲ運轉セシムルコトニ努ムヘシ

第六節 新設指定發電所

第一條 局ハ企畫ニヨリテ新設サルヘキ、發電所ノ設立地ヲ、ソノ供給區域トセル、若クハソノ近隣ニ供給區域ヲ有セル公許事業者ト、新設發電所ノ設置ニ關シ、協定ヲ遂クルコトヲ得

第二條 局カ、前條ノ新設發電所ノ設置ニ關シ前條ノ公許事業者ト、合理的條件ヲ以テ協定ヲナスコト能ハサルコトニ付キ、電氣委員ヲ満足セシメタル場合ニ於テハ、電氣委員ハ、一九一九年電氣（供給）法第廿六節ノ下ニ於テ特別命令ヲ下シ、局、又ハ會社及個人ニ對シ、該發電所設置ノ許可ヲ

與フルコトヲ得

第三條 局自ら發電所ヲ新設ナス場合ニ於テハ局ハ自ら之ヲ運轉シ、若クハ、公許事業者又ハ其他ノ會社又ハ個人ト協定ヲナシ、コレカ運轉ヲナサシムルコトヲ得
但シ、局ハ、公許事業者又ハ其他ノ會社又ハ個人ト合理的條件ヲ以テ、該發電所ノ運轉協定ヲナスコト能ハサルコトニ付キ、電氣委員ヲ満足セシメタル場合ニ非ラサレハ、局自らコレカ運轉ヲ行フコトヲ得ス

第七節 指定發電所所有者ノ權利義務

第一條 指定發電所ノ所有者ハ局ノ決定セル日ヨリ左ノ義務ヲ負フモノトス

一、其ノ發電所ニ於テハ局ノ指定スル電力量ヲ局ノ指定スル出力歩合並ニ時間ニ於テ發電スルコト、而シテ右ノ發電作業ニ關シテハ深甚ノ注意ヲ以テ其ノ經濟ト能率トヲ期スヘキコト
二、其ノ發電所ニ於テ發電スル電力ハ全テ後記ノ價格ヲ以テ局ニ賣渡スコト

第二條 指定發電所ノ所有者ハ（局ハ公許事業者ニ要求シテ局ノ供給スル全電力ヲ取ラシムルコトヲ得トノ本法ノ規定及ヒ本法ノ他ノ規定ノ下ニ於テ、公許事業者ノ有スル供給請求權ヲ害ハスシテ）其ノ發電所ノ發電量ヲ超エサル程度ニ於テ其ノ事業ノ目的ニ必要ナル電力ヲ後記ノ價格ヲ以テ其ノ

局ノ發電所ヨリ供給セラル、ノ資格ヲ有ス

第三條 局カ指定發電所ノ所有者ニ對シ其ノ發電所ニ於テ發電セラル、電力ノ經費トシテ支拂フヘキ金額ハ特約アル場合ノ他本法第二附則ノ規定ニ從ヒ算出シタル發電費トス

第四條 局ニヨリテ、指定發電所ヨリ其ノ發電所ノ所有者ニ對シテ供給セラル、電力ノ料金ハ、特約アル場合ノ外左ノ何レカ低率ナルモノニヨル

一、本節第三條ノ下ニ於テ算定シタル發電費ヲ基礎トシ之ヲ指定發電所ニ與ヘラレタル負荷率及ヒ力率ニヨリ及ヒ受電又ハ發電以外ノ費目ニ於テ其ノ蒙リタル費用ノ適當ナル割出額ニヨリテ調節シタル金額

二、局ノ行フヘキ電氣供給ニ關シ本法ノ下ニ於テ算定セラレタル料金

第五條 電氣料金トシテ局ノ支拂フヘキ金額又ハ局ノ受クヘキ金額カ本節ノ規定ニ準據シテ算定セラ
ル、トキハ局カ或ル年度ニ於テソノ供給ニ對シテ支拂フヘキ又ハ受クヘキ金額ハ其ノ年度ノ終了後可及的迅速ニ算出スヘシ、但シ局ハ本節ノ下ニ於テ指定發電所ノ所有者ニ對シ局ノ支拂フヘキ純金額ハ此ノ目的ノタメニ作成シタル見積表ニ準據シ月別拂トナシソノ年度ノ終了後ニ於テ局ノ實際負擔金額ノ決定シタルトキハ直ニ前項ノ支拂額ヲ之ニヨリテ適宜決定スヘシ

第六條 本節ノ下ニ於テ局ト指定發電所所有者間ニ何ラカノ紛爭ヲ生シタル場合其ノ紛爭ニシテ發電

費ニ關スルモノナルトキハ交通大臣ノ任命スル會計検査官之ヲ裁定ス、其ノ紛争カ其他ノモノニ關スルトキハ電氣委員之ヲ裁定ス、但シ會計検査官又ハ電氣委員ニヨリテ該紛争ノ件裁定セラレサル場合ニ於テハ該發電所ノ所有者ハ局カ合法的ニ命スル要求ニ應スヘシ

第七條 一九二五年ロンドン電氣法（第一號）及ヒ一九二五年ロンドン電氣法（第二號）ノ第三附則ニ規定セラレタル契約ノ意義ニ合致セシムル爲局カ本節ノ規定ニ準據シ指定發電所ノ所有者ヨリ電力ヲ購入スル場合ニ於テハ局ヲ是等契約ニ關スル前記附則第三項ノ需用者ト看做サス

第八節 送電幹線路ノ建設及買收

第一條 本法ノ下ニ於テ、企畫カ或ル地域ノ全般、若クハ其ノ一部分ニ對シテ適用サレタル場合局ハ直ニ該地域ノ全般、若クハソノ一部ニ關シ該企畫ノ要求スル所ニ從ヒ指定發電所相互間ノ接續ヲ圖リ且又之ト公許事業者ノ系統トノ接續ヲ圖ルタメ送電幹線路ヲ建設スヘシ

第二條 公許事業者ニ屬スル送電幹線路ノ局ニヨリ買收ニ關シ企畫カ規定ヲナセルトキニ於テ局カ該公許事業者ニ對シテコレカ告示ヲナシ且本法第一附則ニ準據シテ決定セル價額ヲ之ニ支拂ヒ又ハ提供シタルトキハ交通大臣ハ命令ヲ以テ該送電幹線路ヲ局ニ歸屬セシム

第三條 局カ前條ノ下ニ於テ送電幹線路ヲ買收シ且局ニ於テコレカ權利行使ヲナスノ必要上該送電幹

線路ニ接續シ且ツ公許事業者ニ屬セル開閉機及ヒ其他ノ機器ノ變更又ハ取換ノ必要ヲ生シタルトキハ局ハ該事業者カスノ如キ變更又ハ取換ヲナスニ付キ負擔シタル合理的經費ヲ支辨スヘシ前項ノ變更又ハ取換ノ必要アリヤ否ヤニ關シ若クハ其ノ經費ニ關シ兩者間ニ於テ協定ヲ遂クルコト能ハサル場合ハ交通大臣ノ任命セル仲裁官之ヲ裁定ス

第九節 周波數ノ統一

第一條 局ハ公許事業者又ハ指定發電所所有者ニ對シ其ノ事業又ハ發電所ニ於テ使用セル周波數ノ調整又ハ變更ヲ要求スルコトヲ得但シ右ハ該調整又ハ變更ニシテ企畫ノ規定セル周波數ノ統一若クハ局カ電氣委員ノ承認ヲ經テ便宜ト思惟シタル周波數ノ統一ヲ行フニ必要アル場合ニ限ル但シ此ノ場合ニ於テハ局ハ公許事業者又ハ指定發電所所有者カ前項ノ要求ヲ遂行スルニツキ蒙リタル相當ノ費用（需用者ニ屬スル施設ノ變更費又ハ取換費ヲ含ム）ヲ之ニ對シテ支拂フヘキコトヲ條件トスヘシ局ハ該公許事業者又ハ指定發電所所有者カ前項ノ變更又ハ取換ヲ行フニツキ必要トスル費用ヲ、其ノ要求アリタル場合ハ無利子ヲ以テ之ニ前渡シスルコトヲ得該公許事業者又ハ指定發電所所有者ハ前項局ノ要求ニ應スヘキ義務アルモノトス、尙該公許事業者又ハ指定發電所所有者ハ其ノ事業ニ關シ特別法令ニヨリ規定ニ拘ラス前記ノ要求ニ應スヘキ權限ヲ附與セラレ

第二條 局ハ前條ノ費用ノ支拂並ニ費用ノ前渡ヲ目的トシ本法ノ下ニ於テ資金ヲ借入ル、コトヲ得但ノ局ノ收入ノ一部ニシテ局カ前條ニヨリ借入レタル資金ノ利子並ニ減債基金ニ充當セラルヘキ金額ハ局カ事業ノ目的上占有セル不動産ノ純價格又ハ(蘇格蘭土ニ於テハ)土地並ニ財産ノ貸借料又ハ價格ヲ、課稅率決定ノ目的ヲ以テ毎年評價スルニ際シテ算定スヘキ局ノ年收入額中ヨリ控除スヘシ

第三條 局カ前記借入金ノ利子並減債基金ニ充當シタル金額ニ就キテハ局ハ毎年之ヲ電氣委員ヨリ請求シ得ルノ權限アリ前項ニヨリテ電氣委員カ局ニ對シテ支拂ヒタル金額ハ電氣委員ノ經費ノ一部トシテ計上ス但シ電氣委員ノ會計勘定並ニ電氣委員ノ經費ノ支拂要求書中ニ於テハ之ヲ別費目トシテ計上スルヲ要ス、電氣委員カ一九二二年電氣(供給)法第三節ノ規定ニ依ラス、本條ノ規定ニヨリテソノ經費ノ割當ヲ行ハントスル場合ニ於テハ公許事業者ニ對シ大口ニ賣渡スヘキ電力以外ノ電力ヲ販賣シテ得タル收入ヲ基礎トシテ之ヲナスヘシ

第四條 本節ノ下ニ於テ公許事業者又ハ指定發電所所有者カ局ノ要求ヲ遂行スルニ際シ蒙リタル費用ノ決定ニ關シ問題ヲ生シ且ツコレヲ兩者間ノ協議ニヨリテ解決スルコト能ハサルトキハ電氣委員之ヲ裁定ス若クハ該公許事業者又ハ所有者ノ選擇ニ應ジ本法第四節ニ規定セル適當ナル名簿ヨリ交通大臣ノ任命セル辯護士(蘇格蘭土ニ於テハ advocate)ノ仲裁ニ附託シテ之ヲ裁定ス仲裁官ニ於テ便宜ト思惟シタル場合ニ於テハ仲裁官ハ一名若クハ其以上ノ資格アル鑑定官ノ助力ヲ求メ其助力ニヨ

リテ該事件ノ全部若クハソノ一部ヲ審問スルコトヲ得、但シ本節ノ規定ハ局並ニ關係公許事業者又ハ所有者カ協定ヲ遂ケ本節ノ規定ニヨリ局カ公許事業者又ハ所有者ニ對シテ負ヘル負債ノ支拂額ヲ決定スルコトヲ妨ケス

第五條 本節ノ規定ニ拘ハラズ、(第一項)鐵道會社ハ一九二一年鐵道法第十六節ノ規定ノ下ニ於ケル命令ニヨル場合ノ外ソノ事業又ハ發電所ニ於テ使用セル周波數ノ變更ヲ要求セラルルコトナシ

(第二項)公許事業者カ鐵道會社ニ對シ運搬又ハ索引用トシテ電力ヲ供給セルトキハ局ハ該公許事業者ニ要求シテ其ノ供給電力ノ周波數ヲ變更セシムルコトヲ得ス、但シ其ノ關係鐵道會社ニ關シ前項ノ命令カ事前ニ於テナサレタル場合ハ此ノ限リニ非ス

第六條 本法第四節ノ下ニ於テ企畫カ或ル地域ニ對シテ適用サルルニ至リタル場合ニ於テハ一九一九年電氣(供給)法第廿四節ニ規定セル電力委員ノ權利ニシテ周波數ノ調整又ハ變更ニ關スルモノハ之ヲ該地域ニ行使スルコトヲ得ス

第十節 局ノ公許事業者ニ對スル給電義務

第一條 局カ或ル地域若クハソノ一部ニ關シ電氣ヲ供給スヘキ位置ニ立テルコトヲ告示セル時ハ局ハ直ニ本法ノ規定ニヨリ該地域若クハ其ノ一部ニ存セル公許事業者ニ對シ其ノ事業上必要トスル電力

ヲ直接又ハ間接ニ供給スヘキ義務ヲ負フモノトス、但シ此ノ場合ニ於ケル電氣供給料金ハ本法ノ規定ニ準據シテ決定セラレタル所ニヨル但シ局ハ指定發電所所有者ノ權限ニ關セル本法ノ規定ニ從ヒ左記各項ニ亘ル權限ヲ有セス

第一項 公許事業者カ其ノ供給地域内若クハ其ノ一部地域内ニ於ケル電力會社ノ電氣供給權ニ對シ絶對的否認權ヲ有セサル場合又ハ該電力會社カ該公許事業者ニ對シ合理的條件ヲ以テ（此ノ合理的條件ニ就イテ紛争ヲ生シタル時ハ電氣委員之ヲ決ス）電氣ヲ供給シ能ハサルカ若クハ欲セサル場合ニ非ラサレハ局ハ該電力會社ノ供給區域内ニ於ケル公許事業ニ對シ該電力會社ノ同意ヲ得スシテ電氣ノ直接供給ヲナスコトヲ得ス

第二項 局ハ電氣聯合局ノ同意ヲ得スシテ該電氣聯合局カソノ電氣供給權ヲ有セル地域内ノ公許事業者ニ對シ電氣ノ直接供給ヲナスコトヲ得ス

第三項 局ハ「エヂンバロ」自治體ノ同意ヲ得スシテ「エヂンバロ」並ニ「ロシアンズ」電氣區域内ノ公許事業者ニ對シ電氣ノ直接供給ヲナスヲ得ス

第三條 公許事業者カ局ニ對シ電氣ノ供給ヲ要求セル場合ニ於テ之カ供給ヲナスニツキ必要ナルヘキ送電幹線路ノ建設費カソノ供給量ニ比シ不當ナル費用ヲ局ニ負ハシムルモノナルコトヲ局ニ於テ思惟シタルトキハ局ハ該事件ヲ電氣委員ニ附託スルコトヲ得電氣委員ハコレカ正當ナルコトヲ認メタ

ル場合ニ於テハ局ノナスヘキ供給ニ對シ適當ト認ムル條件ヲ附スルコトヲ得

第四條 指定發電所以外ノ發電所ヲ所有セル公許事業者カ局ニ對シテ電氣ノ供給ヲ要求セル場合ニ於テハ該公許事業者カ指定發電所ヲ所有セルト否トニ拘ラス、局ハ次ノ條件（即チ該公許事業者ハ其ノ事業上必要トスル全電氣ヲ局ヨリ直接又ハ間接ニ供給ヲ受クヘシ）ヲ附シテコレカ供給ニ應スルコトヲ得

前項ノ公許事業者カ局ヨリ供給ヲ受クル他ノ公許事業者ニ對シテ電氣ノ供給ヲ要求ナセルトキハ後者ハ局ニ於テ要求スル限リソノ供給ニ對シ前項ト同一ノ條件ヲ附スルコトヲ得（該公許事業者ハソノ事業ニ關スル特別法又ハ命令ニ拘ハラス局ヨリ之カ要求ヲ受ケタルトキハ前項ノ條件ヲ附シ得ルノ權利ヲ有スルモノトス

但シ第一項公許事業者カ局ヨリ直接又ハソノ供給ヲ受クヘキ所要全電氣ノ單價（該公許事業者カソノ供給電氣ヲ利用シ得ルタメ施設又ハ機器ノ取付ニツキ必然的ニ蒙リタル出費ヲ含ム）ヲ七ケ年以ノ期間ニ亘リ該公許事業者ノ發電所ニ於ケルソノ當時ノ發電費單價ヨリモ減額スルコトニツキ局ニ於テ自認スルニ非ラサレハ局ハ前記ノ條件ヲ自ラ附シ若クハコレヲ附スコトヲ要求スルコトヲ得ス此ノ場合ニ於ケル發電費ノ算定ニ際シテハ該發電所ニ對スル投下資本ノ資本費ヲコレカ勘定ニ入ルルコトヲ得ス

第二項公許事業者ニ於テ前項ノ如キ條件ノ附セラルルコトヲ不服トセル場合ニアリテハ該公許事業者ハ之ヲ電氣委員ニ上告スルコトヲ得電氣委員ハソノ上告ニシテ局ヨリ供給ヲ取ル費用カ自己發電ノ費用ヨリモ廉價トナラサルコトヲ根據トセルモノナルトキニ限り該公許事業者ノ要求アラハ本法第四節ニ規定セル適當ナル名簿ヨリ交通大臣ノ任命セル辯護士(蘇格蘭土ニ於テハ ADVOCATE)ノ仲裁ニ之ヲ附託スヘシ仲裁官ニ於テ便宜ト思惟シタル場合ニ於テハ仲裁官ハ一名若クハ其以上ノ資格アル鑑定官ノ助力ヲ求メソノ助力ニヨリテ該事件ノ全部若クハソノ一部ヲ審問スルコトヲ得

第三項局ニ於テ自ラ前項ノ條件ヲ附シ又ハ之ヲ附センコトヲ要求セルトキハ局ハ電氣ノ大口供給ヲ受クヘキ義務ヲ該條件ノ負課セラレタル公許事業者ニ代リテ繼承スルモノトス但シ本法通過後ニ於テ締結セラレタル契約上ノ義務ハ該契約ニシテ電氣委員ノ承認セルモノニ非ラサル限り之ヲ局ニ於テ繼承スルノ義務ナシ

第四條 局ハ或ル地域ノ企畫ニ規定セラレタル工事ノ完了ニ先立ち局ニ於テ適當ト思惟シタル場合ニアリテハ該地域内ノ公許事業者(該企畫ノ完了後ニ於テハ局ヨリ直接供給ヲ受クヘキ資格アル公許事業者)ト協議ヲ遂ケ前記工事ノ完了ヲソノ期限トシソノ協定セル量及ヒ條件ヲ以テ該公許事業者ニ對シ電氣ノ供給ヲナスコトヲ得

第十一節 局ノ公許事業者へ直接供給スル電氣ノ料金

第一條 指定發電所所有者ニ對スル電氣ノ賣渡ニ關シ本法ノ規定セル所ニ從ヒ局カ公許事業者へ直接供給スヘキ電氣ノ値段ハ局ニ於テ隨時制定スヘキ料金ニヨリテ之ヲ定ム該料金ハ電氣委員ノ認定セル一定ノ年限ニ亘リ收入勘定ニ於ケル收入額カ同一勘定ニ於ケル支出額(利子減債基金及ヒ電氣委員ノ許容スル剩餘金ヲ含ム)ト過不足ナカラシムルヤウ制定スヘシ

第二條 料金ハ左ノ二分子ヨリ構成シ且ツ之ヲ別個ニ示スヲ要ス

- 一、定額キロワット料金構成分子
- 二、流動料金構成分子

本條ノ目的上定額キロワット料金構成分子及ヒ流動料金構成分子ハ電氣委員ノ認可セル原則ニ基キテ算定スヘシ

前項ノ料金ハ電氣委員ノ命令ヲ以テコレヲ別個ノ方法ニヨリテ作成スルコトヲ得但シ前項電氣委員ノ命令ハ議會開會中ニ於テ三十日ヲ下ラサル期間議會兩院ニ提出サレタル後ニ非ラサレハソノ效力ヲ生セサルモノトス而シテ該期間滿了前何レカノ議院ニ於テ陛下ニ對シ奉答文ヲ提出シタルトキハ該命令ニ關スル議事ヲ進ムルヲ得ス

第三條 本節ノ下ニ於テ制定セララルヘキ料金ハ局ニ於テ適當ト思惟シタル場合ニ於テハ地域ニヨリテ之ヲ異ニスルコトヲ得ヘシ

第十二節 間接大口供給ノ料金

第一條 公許事業者カ局ヨリ直接又ハ間接ニ電氣ノ供給ヲ受クル場合ニ於テ該公許事業者カ他ノ公許事業者ニ對シ電氣ノ大口供給ヲナセルトキ若クハ鐵道會社ニ對シ運搬又ハ索引用ノ電氣ヲ供給セルトキ該公許事業者ノ之ニ課スヘキ料金ハソノ事業ニ關スル特別法令ノ規定ニ拘ハラズ該公許事業者カ局ヨリ直接又ハ間接ニ電氣ノ供給ヲ受クル場合ト同一條件ニ基クモノタルヘク之ニ本法第三附則ノ規定ニヨリ該公許事業者カツノ大口供給ヲナス爲メニ使用セル送電幹線路又ハソノ一部ニツキ負擔シタル費用ヲ加算ス、該公許事業者ノ課スヘキ料金ノ額ニ關シ紛争ヲ生シタル場合ハ電氣委員ニ於テ之ヲ決定ス但シ本條ノ規定ハ本法通過前ニ於テ締結サレタル契約ニヨリ決定セラレタル電氣供給ノ料金ニ對シ影響スルモノニアラス

第十三節 指定發電所所有者ニ對シテ課セラルヘキ料金ノ制限

第一條 本法ニヨリ指定發電所トセラレタル既設發電所ヲ所有シ且局ヨリ電氣ノ供給ヲ受クル公許事業者カ本法ニ規定スル條件ヲ以テ局ヨリソノ供給ヲ受クルニツキ負擔スヘキ或ル年度ノ經費カ本法ノ通過セサリシ場合自己ノ發電所ニ於テ之ト同量ノ電氣ヲ發電スルニ要スヘキ經費以上ニ上ルコトヲ電氣委員ノ満足スル程度ニ於テ立證セル場合ニアリテハ局カツノ電氣ノ供給ニツキ之ニ課スヘキ其年度ノ料金ハ電氣委員カ該事業者ノ自己發電ヲナス場合ニ於テ蒙ムルヘシト思惟スル經費額以上ニ出サルモノニ調定セララルコトヲ要ス

第十四節 一定ノ場合ニ於テ指定發電所ヲ閉鎖セシ

メ得ルノ權利

第一條 局ニ於テ指定發電所以外ノ發電所ヲ有セル公許事業者ニ對シ該發電所ノ閉鎖サレタルトキハソノ事業ノ目的上必要トスル電氣量ヲ局ハ直接又ハ間接之ニ供給スヘキ位置ニ立テルコトヲ告示シ且本法ノ規定ニ準據シテ確定セラレタル特別條件ニ基キ局ハ七ヶ年以上ノ期間ニ亘リ斯ノ如キ供給ヲナスコトニ着手シ且斯ノ如キ特別條件ニ基ク供給ノ値段ヲ該公許事業者ノ發電所ニ於ケルソノ當時ノ發電費以下トスルコトニ不滿ナシト告示シタルモ該公許事業者カ斯ノ如キ供給ヲ局ヨリ直接又

ハ間接ニ受クルコトヲ拒否シ又ハ局カスノ如キ告示ヲナシタル後三ヶ月以内ニ之ニ同意スルコト能ハサリシ場合ニ於テハ該公許事業者ノ發電所ニ於ケル發電費カ前記特別條件ヲ以テ之ト同量ノ電氣ヲ局ヨリ購入スルノ費用以上ニ事實上出ツルコトヲ電氣委員ニ於テ翌年度ニ關シテ認メ且ツ該發電所ノ閉鎖ヲ以テ便宜ナリト思惟シタルトキハ電氣委員ハ該公許事業者ニ對シテ命令ヲ發シソノ定ムル期間(命令ヲ發シタル日ヨリ六ヶ月以下ナラサル期間)内ニ於テ局ヨリ電氣ノ供給ヲ受ケシメ且ソノ發電所ヲ閉鎖セシムルコトヲ得ヘシ

第二條 本節ノ下ニ於テ公許事業者ノ自己發電費カ果シテ之ト同量ノ電氣ヲ特定條件ヲ以テ局ヨリ直接又ハ間接ニ購入スル場合ノ經費以上ニ上ルヤ否ヤニ關シ紛争ヲ生シタル場合、該公許事業者ニ於テ要求スルトキハ該事件ヲ本法第四節ノ下ニ設定セラレタル適當ノ名簿ヨリ交通大臣ノ任命セル辯護士(蘇格蘭土ニ於テハ advocate)ノ仲裁ニ附託スヘシ
該仲裁官カ便宜ト思惟シタル場合ニ於テハ一名若クハ其以上ノ資格アル鑑定官ノ助力ヲ求メソノ助力ニヨリテ該事件ノ全部若クハソノ一部ヲ審問スルコトヲ得

第三條 本節ノ目的上公許事業者ノ發電所ニ於ケル發電費ノ算定ニ際シテハ、ソノ發電所ニ投下セラレタル資本ノ資本資ヲ之カ勘定ニ入ル、コトヲ得ス

第四條 指定發電所以外ノ發電所ヲ所有セル公許事業者ハ本節ノ目的上電氣委員ヨリ要求アリタルト

キハ其ノ指定スル期間ニ亘リ且ツ其ノ指定スル様式ニヨツテ證明セル自己發電所發電費ノ陳述書ヲ提出スヘシ

第十五節 解雇ニ對スル報償

第一條 一九一九年電氣(供給)法第十六節(一九二二年電氣(供給)法第二十一節ニヨリテ修正セラレタル)ノ規定ハ必要ナル條正ヲ加ヘ之ヲ左記ノモノニ適用ス

- 一、公許事業者ノ使用スル職員又ハ雇員ニシテソノ發電カ閉鎖(永久的又ハ一時的)サレタルカタメ影響ヲ受ケタルモノ
- 二、發電所ノ作業又ハ使用又ハ買収ニ對シ局ニヨリ若クハ企畫ニヨリ又ハ企畫ノ下ニ於テ制限ノ加ヘラレタルカタメ影響ヲ受ケタル公許事業者ノ職員又ハ雇員
- 三、本法ノ下ニ於テ送電幹線路若クハソノ一部カ買収セラレタルカタメ影響ヲ受ケタル公許事業者ノ職員又ハ雇員

此ノ目的ノ爲メニ前記ノ規定ニ必要ナル修正ヲ加ヘタルモノハ本法第四附則ニ採用シタル限り效力ヲ有スルモノトス

第十六節 公許事業者ノ權利

第一條 本法ノ下ニ於テ局カ何ラカノ目的上、公許事業者ト協定ヲナスノ權限ヲ有シ、或ハ之カ協定ヲナスコトヲ要求サレタルトキハ該公許事業者ノ構成又ハ權利ニ關スル特別法令若クハ其他ノ規則如何ニ拘ラス該公許事業者ハ電氣聯合局タルト地方當局タルト會社タルトヲ問ハス、合法的ニ前記ノ協定ヲナスコトヲ得ヘシ

第二條 前項協定ノ遂行ヲ目的トシ、公許事業者（電氣聯合局、又ハ地方當局）ハ一八八八年—一九二二年電氣（供給）諸法ノ下ニ於テ資金ノ借入ヲナスコトヲ得

第三條 公許事業者（會社）カ前項協定ヲ遂行スルニ際シ、資本支出ヲ必要トスル場合ニ於テ、該會社ノ資本増加權ニ制限アルカ爲メ、議會ノ法令ニヨルノ外ソノ必要トスル資金ヲ得ルコト能ハサルトキハ、該會社ハソノ現存諸種證券又ハ資本株ノ増加、若クハ新社債又ハ資本株ノ募債ニ關スル規定ヲ包含シ且ツソノ權利先取權及ヒ條件ヲ規定セル企畫ヲ高等法院（又ハ蘇格蘭士大審院）ニ提出スヘシ

該法院ニ於テ前項ノ企畫ヲ認可セルトキハ會社又ハソノ社債或ハ資本株ノ所有者ニ關スル特別法令如何ニ拘ラス、各種ノ追加資本ハソノ種ノ現資本ノ一部ヲ形成シ、且之ヲ同列ニ位スヘキモノトス、

各種ノ追加新資本ハ之ト關係アル種類ノ證券ノ所有者ノ價格ニ於ケル多數ノ同意ヲ得サレハ之ヲ現在資本ノ先位ニ置クコトヲ得ス

第十七節 發電所又ハ送電幹線路ノ局ニヨル買收ノ

從屬規定

第一條 本法ノ下ニ於テ公許事業者、會社又ハ個人或ハ局カ、發電所ヲ買收シタル場合、若クハ本法ノ下ニ於テ局カ送電幹線路ヲ買收シタル場合、該發電所若クハ送電幹線路カ建設、擴張又ハ修理中ナルトキハ、ソノ所有者カ契約ノ下ニ於テ該建設、擴張又ハ修理ニ關シテ有セル權利義務ハ、該發電所若クハ送電幹線路ノ買收者（本法ニ於テハ以下之ヲ買收當局）ニ移轉スルモノトス

第二條 本法ノ下ニ於テ、買收當局ノ買收シタル發電所カ前所有者ノ配電系統ノ主要部タル設備ヲ包含セル場合ニ於テハ、該設備ハ發電所ノ買收ニ拘ラス、前所有者ノ財産トシテ存續スルモノトス、前所有者ハ買收サレタル發電所ヨリ、配電ノタメニ電氣ノ供給ヲ受クル限リニ於テ常ニ該發電所ニ對シ電氣ヲ供給セシムルノ權利ヲ有ス

第十八節 同意ヲ得ルコトヲ必要トセサル場合

三四

第一條 企畫ノ一部、若クハ企畫全般ニ關聯スル協定又ハ要求ヲ履行スルニ際シ電氣(供給)法(一八八二年—一九二二年)ノ下ニ於テ交通大臣又ハ電氣委員ノ同意又ハ認可ヲ必要トスルトキハ、本法ノ規定ノ何レヲ以テスルモ、該局又ハ公許事業者又ハ個人ハ前記ノ同意又ハ認可ヲ得ルノ必要ヲ免カルルコトヲ得ス

第二條 電氣(供給)法(一八八二年—一九二二年)ニヨリテ交通大臣若クハ電氣委員ノ同意又ハ認可ヲ必要トセラレタル場合ニ於テ、公許事業者カ本法ノ下ニ於テ交通大臣若クハ電氣委員ニ對シソノ同意又ハ認可ヲ申請セルトキ、該大臣若クハ委員ニ於テ、ソノ同意又ハ認可ヲ與フヘキヤ否ヤヲ決スルニ際シテハ、本法ノ規定並ニ本法ノ下ニ於ケル企畫又ハ企畫案ノ成果ヲ考慮スルヲ要ス

第十九節 倫敦ニ關スル特別規定

第一條 一九二五年倫敦並ニ近傍諸州電氣區域法又ハ一九二五年倫敦電氣(第一)法又ハ一九二五年倫敦電氣(第二)法ニヨリ、又ハソノ下ニ於テ、電氣聯合局、地方當局、會社又ハ團體ニ課セラレタル技術企畫遂行ノ義務カ、本法ニヨリ又ハ本法ノ下ニ於テ、前記聯合電氣、地方當局、會社又ハ

團體ニ課セラレタル本法第四節ノ企畫遂行ノ義務ト牴觸スルトキハ、後者ノ義務ヲ以テ前者ニ優先トスルモノトス

局ニ關スル補助規定

第廿節 電氣供給法ノ局ヘノ適用

第一條 本條ノ規定ヲ條件トシ、局ハ、電氣(供給)諸法(一八八二年—一九二二年)ノ意味スル範圍内ニ於テ事業者並ニ公許事業者ト看做ス、局ニ關スル本法ハ前記諸法ノ目的上特別法ト看做ス、本法ノ目的上、一八九九年電燈(條例)法ノ附則ハ本法ニ編入ス、然レトモ之ニ對シテハ電氣委員ノ制定スヘキ規則ニヨリ除外例並ニ修正ヲ加フヘシ

但シ一八八二年電燈法第十三節(私設街路鐵道並市街鐵道ノ遮斷ニ關スル規定)並ニ一八八八年電燈法第二節及ヒ第三節(地方自治體ニヨル事業ノ買收ニ關スル規定)ハ局ノナスヘキ事業ニ對シテハ適用セス

一八九九年電燈(條令)法附則第廿節ノ規定ハ之ヲ局ニ對シテ適用スル場合ニハ「電氣信號」ナル語ノ後ヘ「又ハ鐵道ノ電氣制御」ナル語ヲ挿入シタルモノトシテ效果ヲ有スルモノトス

三五

第二條 前條ノ規定ハ之ヲ實施スルニ先立チ、議會ノ會期中卅日ヲ下ラサル期間内兩院ニ提出スルコトヲ要ス、該期間ノ滿了前ニ於テ何レカノ議院カ陛下ニ對シテ奉答文ヲ提出シタルトキハ、之ニ對シテ議事ヲ進ムルコトヲ得ス

第三條 左記二項ノ場合ヲ除キ、局ハ公許事業者ニ非ラサルモノニ對シテ電氣ノ直接供給ヲナスコトヲ得ス

第一項 公許事業者ニ非ラサル指定發電所ノ所有者ニ對シテハ局ハ本法ノ下ニ於テ該所有者カ前項ノ供給ヲ取ルノ資格ヲ有スル範圍内ニ於テソノ供給ヲナスコトヲ得

第二項 電氣委員ノ同意アリタル場合ニ於テハ、局ハ公許事業者ノ供給區域外ノ區域ニ於ケル會社團體又ハ個人ノ要求ニ應シ之ニ動力用ノ電氣ヲ供給スルコトヲ得
但シ局カ會社團體又ハ個人ノ要求ニ應シ之ニ動力用ノ電氣ヲ供給セル場合ニ於テハ、當該會社團體又ハ個人ハ、ソノ供給ヲ受ケタル電氣ヲ動力ノ利用ヲ行ヘル建物ノ全般ノ照明用トシテ用フルコトヲ得

第廿一節 局ニヨル土地ノ買收

第一條 局ハ本法（送電幹線路ノ建設ヲ含ム）ノ下ニ於ケル、ソノ權利並ニ義務ヲ目的トシ、土地ノ買

收或ハ土地ニ對スル地役權又ハ其他ノ權利ヲ協定ニヨリテ獲得スルコトヲ得、若クハ強制的ニ斯ノ如キ買收又ハ、權利ノ獲得ヲナスノ權限ヲ附與セラル、但シソノ方式ハ公許事業者タル地方當局カ電氣（供給）法（一八八二年—一九二二年）ノ下ニ於テ發電所ノタメニ土地ヲ買收シ、若クハソノ買收ヲナスノ權限ヲ附與セラル、場合ト同一タルヘシ、從ツテ此等ノ諸法並ニコレニ合體セラレタル諸法ハ、局ニ對シテ準用ス

局ハ一九一九年土地買收（報償ノ評價）法ノ目的上、公共團體ト看做ス
但シ、電氣委員並ニ交通大臣カ、局ニ對シテ、送電幹線路ノ目的上土地ノ強制買收又ハ地上權ノ強制獲得ニ關スル權限附與ノ特別命令ヲ下シ且ツ之ヲ確認スルニハ、ソノ獲得ヲ求めラレタル目的物カ一九一九年電氣（供給）法第廿二節ノ規定ニヨル通行權ノ獲得ヲ以テシテハ經濟的ニ且ツ效果的ニ獲得スルコト能ハサルコトヲ電氣委員並ニ交通大臣ニ於テ認ムルコトヲ要ス

第二條 本節ノ規定ハ、鐵道、運河、内國海運、船渠或ハ港灣ノ所有者又ハ賃借者カ占有セル土地ノ強制買收權ヲ局ニ附與スルモノニ非ス、若クハ、該土地ニ對スル地役權又ハ其他ノ權利ノ強制獲得權ヲ局ニ附與スルモノニ非ス、但シ、一九一九年電氣（供給）法第廿二節ノ規定並ニ一九二二年電氣（供給）治第十一節ノ規定ニ準據スル場合ハ此ノ限ニ非ス

第廿二節 協定ニヨル送電幹線路使用權

第一條 局ハ公許事業者又ハ其他ノ者ト協定シ（公許事業者ナルトキハ該事業ニ關スル諸法令ニ準據シテ）ソノ協定セル期間ト條件トヲ以テ、該公許事業者又ハ其他ノ者ノ所有セル送電幹線路ヲ使用スルコトヲ得

第廿三節 餘剩電氣購入權

第一條 局ハ地方當局、會社又ハ個人ニシテ、水力、火力、又ハ其他ノ利用ニヨリテ、發電ヲ行ヘルモノト協定シ、ソノ協定セル條件ヲ以テ該地方當局會社又ハ個人ノ餘剩電力ヲ局ニ於テ購入スルコトヲ得、局ハ前項ノ購入電氣ヲ送電スルカタメ、必要ナル權利（街路、鐵道軌道ノ遮斷權ヲ含ム）行使ノ權限ヲ電氣委員ノ命令ニヨリテ附與セラルヘシ

第二條 一九一九年電氣（供給）法第十五節第二條ノ規定ハ電氣聯合局ニ適用スルト同シク局ニ對シテモ之ヲ適用ス

第廿四節 政府測候所等ノ障害妨止

第一條 局カ本法又ハ其他ノ法令ノ下ニ於テ、發電所、變電所、變壓所、建物、施設、機械、送配電幹線路用具、又ハ、器具ノ施設、建物、設備、變更又ハ使用ヲナシ、若クハ、電氣ノ使用、使用ノ許可、送電、變電又ハ變壓ヲナサントスル場合ニハ、本法通過當時現存セル政府測候所若クハ實驗所又ハ之ニ附屬セル機械器具又ハ之ニ關聯シテ使用セラル、機械器具ニ對シ如何ナル點ニ於テモ震動又ハ妨害又ハ煤煙ニヨリ若クハ電氣的又ハ電磁的作用又ハソノ影響ニヨリ若クハ是等ト同様ノ作用ニヨリテ、障害ヲ與ヘサルコトヲ要ス

第二條 一八八二年電燈法第廿六節ノ規定並ニ之ニ合同セラレ且ツ一九一九年電氣（供給）法第廿五節ノ規定（郵便大臣ノ保護規定）ニヨリテ修正セラレタル諸條令ハ、之ヲ局ニ對シテ適用スルニ際シテハ該條令ノ規定スル郵便大臣ヘノ附議カ其他ノ省ヘノ附議ヲモ包括セルモノトシテ效果ヲ有スルモノトス

第廿五節 年報、統計及ヒ報告

第一條 局ハ毎年、交通大臣ノ制定スル時日ト形式トヲ以テ、交通大臣ニ對シ局カ本法ノ下ニ於テ、前年中ニ行ヒタル業務ノ報告書ヲ提出スヘシ、尙該報告書ハ之ヲ議會兩院ニ提出スルヲ要ス

第二條 局ハ電氣委員ノ要求スル所ニ從ヒ、ソノ指定セラレタル時日ト形式トヲ以テ、諸統計及ヒ報

告書ヲ提出スヘシ

財政諸規定

第廿六節 局ノ經費

第一條 局ノ收入シタル全金額ハ、之ヲ別個ノ基金ニ繰入ルヘシ、而シテ該基金中ヨリ局理事者ノ俸給、報酬並ニ手當、職員及ヒ雇員ノ給料、報酬、年金並ニ慰勞金、及ヒ局ノ負擔シタル一切ノ經費ヲ支出スヘシ

且ツ局ハ本法ノ下ニ於テ、電氣委員カ企畫ノ準備ニツキ負擔シタル經費ヲ拂戻シ、且交通大臣カ本法實施前企畫ノ準備ニ先立チテ負擔シタル經費並ニ債務ハ共ニ年五分ノ利子ヲ附シテ支拂フヘキモノトス

第廿七節 局ノ資金借入權

第一條 本法後節ニ規定シタル目的上、局ハ電氣委員ノ同意ヲ以テ、且ツ交通大臣ノ制定シ大藏省ノ協賛セル規則ニ準據シテ資金ノ借入ヲナスコトヲ得、但シ該資金借入ノ方法、及ヒソノ償還並ニ借

入金支拂ノタメニスル再借入ニツキテハ、前項規則ノ定ムル所ニヨルヘシ、而シテ右ノ規則ニヨリテ局ハ證券ノ發行又ハ其他ノ方法ヲ以テ資金ノ一時借入ヲナシ得ルノ權限並ニ銀行業者ト協定ヲナシ得ルノ權限ヲ附與セラル、又地方當局ノ借入權ニ關スル條令ニ修正ヲ加ヘ又ハ修正ヲ加ヘス且破産管理人又ハ其他ノ者ノ任命ニヨル擔保ノ強制執行ニ關スル規定ヲ編入セシメテ、之ヲ適用スルコトヲ得

第二條 前條ノ資金借入權ハ、左記ノ目的ノ何レカニ對シ、又ハソノ全部ニ對シ、之ヲ行使スルコトヲ得

第一項 本法ノ下ニ於テ局カソノ權限ヲ附與セラレタル送電幹線路、發電所及ヒ其他工作物ノ建設又ハ買收

第二項 局カソノ權限ヲ附與セラレタル其他ノ支拂又ハ耐久工事若クハ其他工事ノ經費ニシテ、電氣委員ノ意見ニ於テ一定ノ年限ニ亘ツテ支拂フコトヲ可トセルモノ（電氣委員カ大藏省ト協議シテ、定メタル資本支出ノ未收益期間中、局カ資本支出ニ對スル借入金ノ利子支拂ヲ含ム）

第三項 運轉資本ノ設定

第四項 局カ本法ノ下ニ於テ、ソノ資金借入權ヲ附與セラレタル其他ノ目的

第三條 本節ノ下ニ於テ借入レタル資金並ニソノ利子ハ局ノ事業及ヒ其ノ總收入又ハ局ノ事業ノ一部

ヲナセル特殊財産ニ於テ負擔セラルヘシ、前項ノ借入金及ヒソノ利子ハ、六十ケ年ヲ超エサル期間内ニ於テ、電氣委員ノ決定スヘキ、期間内ニ償還スルコトヲ要ス

第四條 局カ本節ノ下ニ於テスル借入金ノ最高限度ハ三千三百五十萬磅トス、局ハ、既發行證券償還ノタメニスル他、此ノ限度以上ノ借入ヲナスコトヲ得ス、但シ局カ一九一九年電氣（供給）法第廿六節ノ下ニ於ケル特別命令ニヨリ、ソノ權限ヲ附與セラレタル場合ハ此ノ限ニ非ス

第五條 局カ本法ニ規定シタル目的上借入レタル資金ノ支拂ニ對シ、局ノナスヘキ各年度ノ準備金ハ該資金ヨリシタル支出ノ未收益中ニ於テハ、之ヲ停止スルコトヲ得、前項停止期間並ニ條件ハ電氣委員ニ於テ、大藏省ト協議ノ上決定スヘキモノトス

但シ前項ノ停止期間ハ前項ノ支出ヲナシタル翌年ノ會計年度ヨリ起算シテ、五ケ年ヲ超ユルヲ得ス

第廿八節 證券發行權

第一條 局ハ、本法ノ下ニ於テ、ソノ借入權ヲ附與セラレタル資金調達ノ目的ヲ以テ、證券ヲ發行スルコトヲ得（中央電氣局證券ト稱ス）

第二條 前條ノ證券並ニソノ利子ハ、局ノ事業及ヒソノ總收入ニ於テ負擔スルコトヲ得

第三條 本法ノ規定ヲ條件トシ、本法ノ權利ノ下ニ於テ局ノ發行シタル證券ハ、交通大臣カ大藏省ノ協贊ヲ以テ制定シタル條令ニ基キ、ソノ發行、移轉、取引並ニ買戻ヲナスヘシ
前項ノ條令ハ本節ノ目的上、一八七五年地方債法ノ規定、一八九〇年公共健康法修正法ノ規定並ニ此等諸法ノ修正法及地方當局發行ノ公債ニ關スル法令ノ規定ニ修正ヲ加ヘ若シクハ加ヘスシテ適用スルコトヲ得

第廿九節 局發行證券ニ對スル大藏省ノ保證權

第一條 本節ノ規定ヲ條件トシ、大藏省ハソノ適當ト認ムル方法ニヨリ、局ノ發行セントスル證券ノ元利金、若クハ元金又ハ利子ノ支拂ニ對シ、保證ヲナスコトヲ得
但シ、前項ニヨリ大藏省ノナスヘキ證券ノ元金又ハ利子ノ保證額ハ、總額三千三百五十萬磅ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條 大藏省カ本節ニ於テ與ヘタル保證ノ履行ニツキ隨時必要トスル金額ハ、聯合王國國債整理基金、若クハ其果實ニ賦課シ、之ヨリ支辨スヘキモノトス

第三條 前條ノ國債整理基金中ヨリ支辨シタル金額並ニソノ利子（大藏省ノ定ムル率ニヨル）ノ大藏省ヘノ拂戻ハ、局ノ事業及ヒソノ總收入ニ於テ負擔ス、但シソノ順位ハ、大藏省ノ保證シタル證

券ノ元利金及ヒソノ元金拂戻ノタメニスル減債基金ノ次位トシ、該證券發行當時ニ於テ存在セザリシ其他ノ債務ニ優先スヘキモノトス

第四條 本法ニ於テ、國債整理基金中ヨリ支出サレタル金額ニ對シ、隨時、拂戻サルヘキ、金額ハ總テ、國庫ニ對シテ拂込ムヘシ

第五條 大藏省ハ、ソノ與ヘタル、保證ノ效力消滅セサル限り、毎年三月卅一日以後一ヶ月以内ニ議會兩院ニ對シ、其以前ノ一年度中ニ於テソノ與ヘタル保證ノ供述書並ニ同日迄ニ於テ本節ニ於ケル國債整理基金中ヨリ支辨シタル金額又ハ、之ニ對シテ拂戻サレタル金額ノ計算書ヲ提出スヘシ

第卅節 會計及ヒ會計検査

第一條 局ハ適當ナル會計帳簿並ニ其他ノ關係帳簿ヲ保管スルコトヲ要ス、局ハ、毎年交通大臣ノ命スル形式並ニ條項ヲ具備シタル會計報告ヲ作製スヘシ

第二條 局並ニソノ職員ノ計算書ハ、交通大臣ノ任命セル會計検査官之ヲ検査スヘシ
右ノ會計検査ハ、交通大臣ノ定ムル條令ニ準據シテ之ヲ執行スヘシ

第三條 局ノ計算書ノ會計検査終了シタルトキハ、局ハ、直チニ該計算書寫一部並ニ會計検査官ノ之ニ關シテ作製シタル報告書寫一部ヲ交通大臣ニ提出シ、交通大臣ノ指令スル方法ニヨリ該計算書ヲ

公表シ且ツ、單價一志ヲ超エサル代金ヲ以テ之ヲ一般ニ販賣スヘシ

雜 則

第卅一節 電力會社ノ供給電氣料金

第一條 局ヨリ電氣ノ供給ヲ受ケ始メタル電力會社ニ付テハ、交通大臣ハ、該會社カ、ソノ供給（公許事業者ヘノ大口供給ハ別トシテ）ニ對シ、該會社特別法ノ下ニ於テ課スコトヲ許サレタル最高料金ヲ改正スルコトヲ得

又交通大臣ハ前項會社特別法ニヨリテ定メラレタル標準料金ヲ修正スルコトヲ得、前項最高料金並ニ標準料金ノ修正ヲナスニ際シテハ、該會社カ本法ノタメニ蒙ルヘキ發電費ノ増減ヲ考慮スヘシ

第二條 本法ノ通過以前ニ於テ通過シタル特別法ニヨル前條ノ電力會社ガ規定ノ配當率ニ達セザリシ前期ノ配當ヲ填補シ得ルノ權限ヲ有セルトキハ、電氣委員ハ、ソノ適當ト認ムル審査ヲ行ヒタル後一九一九年電氣（供給）法第廿六節ニヨル特別命令ヲ以テ前記權限ノ取消又ハ制限ニ關スル規定ヲナスコトヲ得

斯ノ如キ命令ノ發セラレタル場合ニ於テハ、前項ノ特別法ハ、ソノ命令ノ規定ニ準據シテ效力ヲ有

第卅二節 料金ト配當トノ關係

第一條 公許事業者ニシテ、電力會社ニ非ラサル會社カ、局ヨリ直接又ハ間接ニ電氣ノ供給ヲ受クル場合ニ於テハ、電氣委員ハ、該會社カ本法ノタメニ蒙ルヘキ電氣費ノ増減ヲ考慮シタル後、妥當ト認ムルトキハ電氣ニ對シテ課セラルヘキ料金ト會社ノ支拂フヘキ配當トノ關係ニ關スル規定ヲ一九一九年電氣（供給）法第廿六節ノ下ニ於ケル特別命令ヲ以テ制定スルコトヲ得

前項特別命令ノ規定ハ、會社ノ事業ニ關スル特別法令中料金ト配當トノ關係規定ニ代リテ效力ヲ有スルモノトス

但シ前項ノ會社カ二以上ノ別個事業ヲ行ヒ、且ソノ一事業又ハ其以上ノ事業ニ對シテ局ヨリ電氣ノ供給ヲ受クルトキハ、前項命令ハソノ事業ニ投下サレタル資本ノ可分的利潤ヲ考慮シテ、ソノ一事業又ハ數個ノ事業ニ對シ受クル電氣料金ヲ決定ス

第二條 本節ノ規定ハ一九二五年倫敦市並ニ近郊諸州電氣區域法ノ意味スル倫敦會社又ハ一九二五年倫敦電氣（第一）法第四附則ニヨル協定ノ下ニ於テ設立サルヘキ會社又ハ一九二五年倫敦電氣（第二）法第八節ニ規定セラレタル事業合同ノ目的ノタメニ設立サルヘキ會社ニ對シテハ適用セス

第卅三節 地方當局並ニ職員ノ停年法ノ採用

第一條 局並ニ電氣聯合局ハ（電氣聯合局ノ場合ニ於テハ、一九一九年電氣（供給）法第八節第二條ノ規定ヲ害セスシテ）各別ニ適當ト認メタルトキハ一九二二年ノ地方當局並ニ其他官公吏停年法ヲ採用スルコトヲ得、但シ局又ハ電氣聯合局ハ前記一九二二年法ノ意味スル地方當局ナルモノト同様ノ場合ニ之ヲ採用スルコトヲ要ス

局又ハ電氣聯合局カ前項ノ法律ヲ採用シタルトキハ、該法ハ、局又ハ電氣聯合局カ地方當局タルモノトシテ適用サルヘシ

第卅四節 電線路ノ支障樹木並ニ生垣ノ伐採權

第一條 樹木又ハ生垣カ公許事業者ノ建設又ハ所有セル送電幹線路又ハ其他ノ電線路ノ建設、維持又ハ運轉ノ妨害ヲナシ、又ハ、前記電線路ノ維持又ハ運轉ト抵觸スル惧アルトキハ、該公許事業者ハ該樹木又ハ生垣ノ成育セル土地ノ所有者又ハ占有者ニ對シテ通告ヲナシ枝拂又ハ伐採ヲ要求シ、以テ該妨害又ハ抵觸ヲ除去セシムルコトヲ得、但シ此ノ場合ニ於テ、該土地ノ所有者又ハ占有者カ公許事業者ノ通告ニ應スルコトニヨリ、正當ニ支出セル費用ハ該公許事業者ニ於テ支辨スルヲ要ス

但シ前項ノ通告カ樹木又ハ生垣ノ成育セル土地ノ占有者ニシテ所有者ニ非ラサルモノニ對シテナサレタルトキハ該通告ノ寫一通ハ、ソノ土地ノ所有者(不明ノ場合ハ此ノ限りニ非ス)ニ對シテ通告スヘシ

第二條 前條ノ通告カ與ヘラレタル日ヨリ廿一日以内ニ、ソノ通告ノ要求カ應セラレス、且ツソノ土地ノ所有者又ハ占有者カ本節ニ規定セル反對通告ヲナササルトキハ、該公許事業者ハ自ラソノ樹木又ハ生垣ヲ技拂又ハ伐採シ以テソノ妨害又ハ抵觸ヲ除去スルコトヲ得

第三條 前條ノ通告カ與ヘラレタル日ヨリ廿一日以内ニ樹木又ハ生垣ノ成育セル土地ノ所有者又ハ占有者カ該公許事業者ニ對シテ反對運動ヲナシ、ソノ通告ノ要求ニ應セサルトキハ該事件ハソノ反對通告ノ撤回セラレサル限り、之ヲ交通大臣ニ附議スヘシ、交通大臣ハ、兩當事者ニ對シ意見開陳ノ機會ヲ與ヘタル後、ソノ適當ト認ムル命令ヲ下スコトヲ得

前項ノ命令ハ公許事業者カ反對通告ヲナシタル者ニ對シ該命令ノ指定スル所ニヨリ伐採作業ヲ開始スヘシトノ合理的豫前通告ヲ與ヘタル後自ラ樹木又ハ生垣ヲ技拂又ハ伐採シテ、ソノ妨害又ハ抵觸ヲ除去スルノ權限ヲ該公許事業者ニ與フルコトヲ得、尙前項ノ命令ハ該公許事業者ノ支拂フヘキ報償並ニ費用ニ關スル紛争ヲ裁決スルコトヲ得

第四條 公許事業者ハソノ職責並ニ雇員ニ對シテ、訓令ヲ發シ、樹木又ハ生垣ノ枝拂又ハ伐採ヲ樵夫

ノナスカ如ク行ハシメ且ツ樹木、垣根、生垣、並ニ成育作物ニ對シテ及ホスヘキ損害ヲ能フ限り小ナラシムルコトヲ要ス、尙伐採シタル樹枝ハ該土地所有者又ハ占有者ノ指示スル所ニ從ヒテ除去シ且ツ該土地ニ與ヘタル損害ヲ填補スルコトヲ要ス

第五條 本節ノ下ニ於テ公許事業者カ土地ノ所有者又ハ占有者ニ對シテ支拂フヘキ報償並ニ費用ハ民事上ノ負債トシテ速ニ賠償スヘシ

第六條 送電線路ノ建設又ハ維持ノため樹木ヲ伐採スルノ必要アル場合ニ於テハ、本節ノ規定ハ樹木ノ枝拂ニ適用スルト同様樹木ノ伐採ニモ適用スヘシ

第七條 本節ノ規定ハ公許事業者ノ所有又ハ建設スル送電線路ニ適用スルト同様ニ、局ノ所有又ハ建設スル送電線路ニ對シテ適用スルモノトス

第卅五節 州橋梁ノ保護

第一條 州會(本節ノ下ニ於テハ州會ト呼フヘシ)ト局トノ間ニ於テ、別個ノ協定ヲナササル限り、左記各項ノ規定ハ效力ヲ有ス

第一、本法ノ規定ハ本法ノ認可セル工作物ヲ設置スヘキ橋梁ノ結構ヲ州會ニ於テ再設、變更、擴張又ハ修復スルノ權限ニ對シ、制限又ハ影響ヲ與ヘサルモノトス

尙本法ノ規定ハ、州會カ本法ノ通過以前ニ於テ、法令ニヨリテ負課セラレサリシ債務ヲ之ニ賦課セス

五〇

第二、州會カ橋梁ノ再設、變更、擴張又ハ修復工事ヲ行フ必要ヲ生シタル場合ニ於テ、該工カ本法ノ認可セル事業ノ一部ト抵觸スルトキハ、該州會ハ、該工事開始前ニ於テ期限ヲ一ヶ月トスル豫告ヲ以テ該工事ノ計劃書ヲ局ニ通達スルコトヲ要ス

局ノ行ヘル電氣供給業務ノ中斷ヲ避クルタメ局ニ屬スル送電線路又ハ其他ノ電氣設備ヲ前記橋梁ヨリ一時取去ルヘキ必要アルコトヲ當該州會ニ於テ思惟シタルトキハ、斯ノ如クスル權限ヲ本節ノ規定ニヨリテ附與セラルル局ノ費用ヲ以テ電纜並ニ電線ヲ該橋梁ノ架空又ハ側面ノ適當ナル位置ニ移シ、以テ公衆ニ危險又ハ不便ヲ與ヘス又ハ州會ノ行フヘキ工事ト不合理ニ抵觸セサルヤウナスヘシ

第三、前項橋梁ノ再設、變更、擴張又ハ修復ノ完了シタルトキハ、局ハ、局カ該工事ノ行ハレサリシ以前ニ於テ有シタルト同様ノ權利ヲ該橋梁並ニソノ橋詰ニ對シテ有スルモノトス

第四、本節ニ關聯シテ州會ト局トノ間ニ何ラカノ紛爭ヲ生セシトキハ、當事者一方ノ申請ニ應ジ交通大臣ノ任命セル仲裁官之ヲ裁決ス

第二條 本節ノ規定ヲ蘇格蘭土ニ對シテ適用スルニ際シテハ、本節ノ州會ハ州道路局ヲ意味スルモノ

トス、又ハ橋梁カ一以上ノ州ニ跨レルトキハ、本節ノ州會ハ、橋梁聯合委員（斯ノ如キ委員ノ任命ナキトキハ此ノ限りニ非ス）ヲ意味スルモノトス

電氣供給法ノ修正

第卅六節 電氣區域ノ組成並ニ該區域内ノ供給

組織ニ對スル企畫

一九二二年電氣（供給）法第十九節ニヨリテ修正セラレタル一九一九年電氣（供給）法第五節ノ規定ハ左記各條ノ規定ニ變換セラルヘシ

第一條 或地域ニ關シソノ地域内現行ノ電氣供給ノ組織ヲ改善シ、且電氣聯合局ヲ設立スル必要ノアルコトヲ、電氣委員ニ於テ認知シタルトキハ、電氣委員ハ、該地域ヲ以テ別個ノ電氣區域ニ組成シ且該區域内ニ於テ遂行スヘキ改善ノ企畫並ニ該地域ニ對スル電氣聯合局設立ノ企畫ヲ作成スルノ意思ヲ告示スヘシ

但シ數個ノ區域ヲ一供給區域ニ包括スヘク、選定スルニ際シテハ、電氣供給ノ效果及ヒ經濟並ニソノ管理上、電氣委員ノ最モ好都合ト思惟スル所ニヨリ之ヲ決定スヘシ

第二條 電氣委員ハ、前條ノ告示ヲナシタル後、豫定電氣區域内ノ公許事業者ト協議シテ、前條ノ企畫ヲ作製シ之カ公布ニ最モ適當セル方法ヲ以テ、該企畫ヲ公表シ、且ツ之ニ對スル地方的諮問ヲナスヘシ、而シテ、電氣委員ハ公許事業者、州會、地方當局及牽引ノ目的ノ爲メニ電氣ヲ使用シ又ハ使用セントスル鐵道會社、電氣ノ大口需用者並ニ豫定電氣區域内ニアル其他ノ社團又ハ團體ニシテ電氣委員カ利害關係アリト思惟スルモノニ付テ、ソノ企畫ニ關スル提議ヲナサシムル機會ヲ與ヘ且或地方ノ豫定電氣區域ニ編入又ハ除外スヘキモノアリヤニツキ、ソノ意見ヲ開陳セシムヘシ

第卅七節 企畫ノ内容

第一條 電氣聯合局ノ設立ニ關スル企畫ハ一九一九年電氣（供給）法第六節ノ下ニ於テ、制定サルヘキ規定ノ他ニ左ノ規定ヲモ包括スルコトヲ得

- 第一項 電氣聯合局カ電氣區域内ニ於ケル電氣供給ノ開發ノタメニスル工事遂行ニ關スル規定
- 第二項 後日ニ於ケル電氣聯合局組織變更ニ關スル規定

第卅八節 企畫ノ修正

第一條 一九一九年電氣（供給）法第七節ノ下ニ於テ前命令修正ノタメニスル新命令ノ制定權ハ原命

令カ電氣聯合局設立ニ關スル規定ヲ有セサル場合ニ之カ設立權ヲ包括スルモノトス

第二條 前條ノ修正命令ヲ以テ電氣聯合局ヲ設立シ、前命令ニヨリテ組織セラレタル諮問委員會又ハ其他團體ニ代ラシムル場合ニ於テハ、該修正命令ハ一九一九年電氣（供給）法第十六節ノ規定ノ諮問委員會又ハ其他團體ノ職員及ヒ雇員ニ對シ、一九二二年電氣（供給）法第十一節ニヨリテ修正セラレタルカ如ク、必要ナル修正ヲ加フルコトヲ要ス

第卅九節 大供給地域ヲ有セル會社ニ關スル規定

第一條 本法施行後ニ於テ一會社ニ對シ特別命令ヲ以テ電氣供給ノ權限カ附與セラレ且該供給地域カ二若クハ其以上ノ地方當局ノ全地域ヨリ成リ、又ハ之ヲ包括シ且該供給地域ノ適當ナル範圍ニ亘レルモノナルコトヲ電氣委員ニ於テ認メタルトキハ、該事業ノ買收權ニ關シ、左記ノ規定ハ效力ヲ生スルモノトス

第一、買收當局ハ前項特別命令確認ノ日ヨリ五十ケ年ノ期間滿了後六ヶ月以内又ハ前項特別命令ニ於テ、ソノ爲メニ特ニ規定セル之ヨリ短キ期間内、若クハ其後ノ十ケ年ヲ一期トセル期間滿了後六ヶ月以内又ハ前項特別命令ニ於テ其ノ爲メ特ニ規定セル之ヨリ短カキ期間内ニ於テ前項ノ會社ニ對シ書式通告ニヨリ之カ賣渡ヲ要求スルコトヲ得

前項ノ要求ヲ受ケタル會社ハ、ソノ事業ヲ局ニ對シテ賣渡スヘシ、但シ此ノ場合ニ於テハ會社ハソノ賣渡當時ニ於テソノ事業ノタメニ使用セル又ハ使用ナシ得ヘキ適當ノ狀態ニアル土地、建物、工作物、材料及ヒ設備ニ對シ適當ニ投下シタル資本金額ヨリ特別命令ノ定ムヘキ率ニ基キ元價消却見積額ヲ控除シタルモノヲ以テ、ソノ賣渡價格トナスヘシ

第二 交通大臣ハ前條ノ賣渡ニ關シテ生シタル紛争ヲ裁決シ賣渡ノ效力發生ノ期日ヲ定ムヘシ
前項ノ期日又ハ當事者ノ協定セル期日ヨリ、ソノ賣却サレタル土地、建物、工作物、材料及ヒ設備ハ、全テ買收當局ニ歸屬ス、但シ、該事業者又ハソノ事業ニ附帶セル借財、抵當又ハ其他負債ハ此ノ限リニ非ス、該事業者カ一八八二年—一九二六年間ノ電氣（供給）法又ハ前記ノ如キ特別命令ノ下ニ於テ、電氣ノ供給ニ關シテ有セシ一切ノ權利ハ、絶對的ニ消滅終了シ、買收當局ニ歸屬スルモノトス

第三、買收當局ハ

(イ) ソノ供給區域カ電氣聯合局ノ供給區域ノ全部又ハソノ主要部分ヲ占ムルトキハ、該電氣聯合局ノモノタルヘシ、但シ、ソノ供給區域ノ一部分カ一電氣聯合局ノ區域内ニ位シ他ノ部分カ他ノ電氣聯合局ノ區域内ニ位スルトキハ、コレカ（供給區域）買收權ハ何レカ一方ノ電氣聯合局ニヨリテ行使サルヘシ、若クハ電氣委員ノ定ムヘキ所ニヨリ之ヲ兩電氣聯合局ノ間ニ分

劃スヘシ

(ロ) 其他ノ場合ニ於テ該數供給區域ヲ統轄セル地方當局ハ一九〇九年電燈法第八節ノ下ニ於テ組織セラレタル聯合委員又ハ聯合局ヲ通シテ行動スルヲ要ス

第四、一八八八年電燈法第二節及ヒ第三節ハ適用セス

第二條 本節第一條ノ適用サルヘキ場合ニ於テハ、電氣料金ト特別命令ノ認可セル事業資本ニ對スル可分的利潤トノ關係ニ就イテハ、特別命令ニヨリ規定ヲ設クルコトヲ得

第四十節 大口供給受電會社ノ買收條件

第一條 公許事業者タル會社カ、自己發電ヲ中止シ、ソノ代リトシテ、局ヨリ直接、又ハ間接ニ、又ハ電氣委員ノ認可ヲ以テ、他ノ電源ヨリ電氣ノ大口供給ヲ受ケ且該會社ノ事業カ一八八八年電燈法第二節ノ下ニ於テ、又ハ同法第二節ノ規定セルト同一ノ原則ニ基ク條件ニヨリ、地方法令ノ下ニ於テ地方當局ノ買收セル所トナレル場合ニ於テハ、同法ノ規定如何ニ拘ラス左記ノ規定ハ效力ヲ有スルモノトス

第一、一八八八年電燈法ノ下ニ於テ又ハ命令ニヨリテ修正セラレタル同法ノ下ニ於テ又ハ前項地方法又ハ地方命令ノ下ニ於テ地方當局ハソノ買收シタル設備及ヒ其他ノ財産ニツキ會社ニ對シテ支

拂フヘキ金額カ前項ノ大口供給ヲ受クルコトニヨリ不適當トナレル設備及ヒ其他ノ財産ニ對シツ
ノ適當ニ投下シタル資本金額ヲ支拂フコトヲ要ス、但シ電氣委員ニ於テ、會社カ前項ノ財産ニツ
キ、帳消ニスルヲ適當ト認ムル金額ハ之ヲ前項ノ資本金額中ヨリ控除スルコトヲ要ス
第二、本節ノ下ニ於テ生シタル紛争ハ、電氣委員ニ於テ之ヲ裁決ス、ソノ裁決ハ最終ナリ

第四十一節 協定ニヨル買收條件變更ノ權利

第一條 一八八二年乃至一九二二年電氣(供給)法又ハ同法ノ下ニ於テナサレタル命令又ハ同命令ニ
ヨル權利ヲ以テ行ハレタル讓渡ノ證書、又ハ特別法又ハ地方法ノ下ニ於テ地方當局(電氣聯合局ヲ
含ム)カ公許事業者ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ買收スヘキ權利ヲ附與セラレタルトキハ、該公許事業者
ハ、本法通過後最初ニ來ルヘキ買收期日前十ケ年以内又ハ其後ノ買收期前十ケ年以内ニ次ノ買收期
日ニ於ケル買收條件ノ修正、變更又ハ改訂ニツキ、該地方當局ト契約ヲ締結シ右兩當事者間ニ於テ
協定シタル電氣委員ノ認可シタル條件ヲ以テコレカ買收ヲナスコトヲ得、前項協定ノ條件ハ兩當事
者ニ對シテ、拘束力ヲ有スルモノトス

第四十二節 料金ノ賦課方法

第一條 公許事業者カ普通ノ需用者ニ對シテ課スヘキ料金ハ、コレカ正當ニ認可サレタルモノナルト
キハ、法律又ハ命令ニヨリ之ト反對ノ規定アルニ拘ハラズ、一定期間ノ定額料金又ハ定量料金及ヒ
需用者ニ對シ實際ニ供給シタル電熱量ノ料金又ハソノ供給ニ含マレタル電力量ノ料金トヲ以テ構成
スルコトヲ得

前項ノ公許事業者カ計量器、電線、附屬品、器具及ヒ用具ノ施設權ヲ有セル場合ニ於テハ、前項ノ
定額料金又ハ定量料金ハ、該公許事業者カ需用者ノ住宅ニ取付ケタル計量器、電線、附屬品、器具
及ヒ用具ノ賃貸料、料金、又ハ損料ヲ包含スルコトヲ得、此ノ場合ニ於テハ、該公許事業者カ該需
用者ニ對シ、損料貸又ハ濟崩購入ノ條件ヲ以テ、之ヲ貸付ケタルト否トヲ問ハサルモノトス

第二條 前條ノ料金決定ノ方法ハ特別命令又ハ一八九九年電燈(條令)法附則第卅一節ノ規定ノ下ニ
於ケル認可又ハ法律又ハ命令ニヨリテ定メラレタル之ト同一規定ノ下ニ於ケル認可ニヨリテ、公許
セラルヘシ、前項ノ特別命令又ハ認可ハコレカ便宜ト認メラレタル場合ニ於テハ、公許セラレタル
他ノ方法ニヨル料金ノ選擇權ヲ普通需用者ニ對シテ附與スルノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四十三節 一八九九年電燈法(62 & 63 Victoria)

Chapter 19.) 附則ノ修正

第一條 本法施行前又ハ施行後ニ於テ、通過又ハ確認セラレタル特別法又ハ命令ヲ編入セル一八九九年電燈（條令）法附則ハ本法第五附則ニ規定シタル修正ニ從ヒテ效力ヲ有ス

第二條 本法施行前又ハ施行後ニ於テ、通過又ハ確認セラレタル電氣供給ニ關スル特別法又ハ命令カ本法第五附則ニヨリテ、修正セラレタル一八九九年電燈（條令）法附則ヲ編入セスシテ之ニ該當スル規定ヲ包含セルトキハ、當該規定ニ同様ノ修正カナサレタルモノトシテ效力ヲ有ス

第四十四節 一九一九年電氣（供給）法第廿一節ノ修正

第一條 公許事業者カ土地並ニ通行權ノ上ニ電線ヲ架設スル爲メソノ同意ヲ求ムルノ申出ヲナシタルモ該電線ノ通過スヘキ土地ノ所有者又ハ占有者カ之ニ合意セサリシトキハ、該公許事業者ハ一九一九年電氣（供給）法第廿二節ノ規定ニ準據シテ、該電線架設申出ノ告示ヲ送達スヘシ、交通大臣ハ

一九一九年電氣（供給）法第廿一節並ニ第廿二節ノ下ニ於テ之ト同時ニソノ手續ヲ取ルコトヲ得

第二條 局又ハ公許事業者カ一九一九年電氣（供給）法第廿二節ノ下ニ於テ、附與セラレタル權利ニヨリ地上ニ架空電線ノ支保工ヲ設置シタル場合ニ於テハ、局又ハ公許事業者ハ、鑛山（作業設備並支保工）法第八節ノ目的上該支保工ノ設置セラレタル土地ニ對シ、利害關係ヲ有スルモノト看做ス

第三條 交通大臣ニ對シ、架空電線設置ノ認可申請アリタル場合ニ於テ該架空電線カ一九一三年古蹟保存法ノ意味スル古蹟ニ對シ不利ナル影響ヲ與フルトノ建議アリタルトキハ、交通大臣ハソノ認可ノ附與又ハ拒否又ハ條件附加ノ決定ヲナスニ際シテハ、該古蹟ニ與フヘキ不利ナル影響ノ防止策トシテ土木委員ノ提出シタル進言ヲ考慮スヘシ

第四十五節 再接續費ノ求償權

第一條 電氣供給ノタメノ電線又ハ其他ノ工作物カ需用者ノ過失ニヨリ合法的ニ切斷又ハ取外サレタルニ依リ公許事業者カ再接續スルニツキ合理的ニ負擔シタル費用ハ該切斷又ハ取外シノタメニ事業者カ當然支出シタル費用ノ求償ト同一ノ方法ヲ以テ該公許事業者之ヲ求償スルコトヲ得

第四十六節 鐵道其他ニヨル電氣供給

第一條 電氣鐵道發電所ノ所有者ハ、ソノ協定シタル條件ヲ以テ他ノ電氣鐵道發電所ノ所有者ニ對シ自己ノ發電所ヨリ電氣ノ供給ヲナスコトヲ得、但シ本節ニヨリテ附與セラレタル權利ノ下ニ於テ前項ノ供給ヲナス場合ニハ電氣委員ノ同意ヲ要ス

第二條 電氣委員ハ、前條ノ供給ノ爲メニ必要トスル街路、鐵道並ニ軌道ノ遮斷權ヲ一八八二年乃至

一九二二年電氣（供給）法ノ規定並ニ一八九九年電燈（條令）法ノ附則ニ準據シソノ命令ヲ以テ認可スルコトヲ得

第三條 一八八二年乃至一九二二年電氣（供給）法並ニ一八九九年電燈（條令）法ノ附則ハ、遞信大臣ノ保護ニ關スル限りニ於テ、本節ノ下ニ於ケル電氣供給ノ爲メノ工事ニ適用スヘシ、之カ適用ニ際シテハ本節ノ規定ノ下ニ於テ電氣ノ供給ヲナセル所有者ヲ事業者ト看做ス、本節ノ規定ハ一八六三年—一九二五年電信法ノ下ニ於ケル遞信大臣ノ有スル權利又ハ救濟ニ何等ノ影響ヲ及ホサ、ルモノトス

第四十七節 鐵道會社其他ヘノ電氣供給

第一條 公許事業者ニシテソノ一部分ガ該供給區域又ハ地域内ニ在リ、他ノ部分カ之ニ在ラサル鐵道、船渠、港灣又ハ運河事業ノ所有者又ハ賃借使用者タル會社又ハ當局ニ對シ、該供給區域又ハ地域内ニ限り牽引又ハ運搬用ノ電氣ヲ供給ナシ得ル場合、コレカ供給ヲ實際ニ開始セルトキハ、該公許事業者ハ交通大臣ノ同意並ニソノ規定スヘキ一般の又ハ特殊の制限及條件ニ從ヒ、前記ノ事業カソノ供給區域又ハ地域内ニ在ルト否トヲ問ハスソノ事業ノ目的上電氣ノ供給ヲナスコトヲ得

該會社又ハ當局ハ交通大臣ノ同意並ニ其ノ規定スヘキ一般の又ハ特殊の制限及條件ニ從ヒ電氣ノ使用ヲ許サレタル事業ノ目的上前項ニヨリテ供給サレタル電氣ヲ使用スルコトヲ得
但シ交通大臣ハ同意申請ノ告示カ、ソノ指定スル方法ヲ以テ、廣告又ハ其他ニヨリテ行ハレ、且該大臣ニ於テ、之ト利害關係アリト思惟スル者ニ對シテ、コレカ建議提出ノ機會ヲ與ヘタル後ニ非ラサレハ、如何ナル場合ニ於テモ前項ノ同意ヲ與フルコトヲ得ス

第四十八節 附屬品ノ販賣

第一條 電氣聯合局及ヒ特別法又ハ命令ニヨリテ電氣供給ノ權限ヲ與ヘラレタル地方當局ハ、本節ノ規定ニ從ヒ、電燈、電熱、電力、及ヒ其他電氣ノ使用セラルヘキ目的ノ爲メ、電線、附屬品、器具並ニ用具（本節ニ於テハコレヲ電氣附屬品ト呼フヘシ）ヲ賣渡スルコトヲ得
前項ノ電氣聯合局及ヒ地方當局ハ前項ノ電氣附屬品ヲ設置、接續、修複、維持及ヒ取除クコトヲ得而シテ、之ニ對シテハ、兩當事者間ニ於テ協定シタル所ニヨリ、報償料又ハ賃貸料及ヒ料金ヲ取立テ且ソノ協定シタル條件ヲ課スルコトヲ得

第二條 本節ノ權利ハ左ノ制限ニ從ヒテ之ヲ行使スルコトヲ得

第一 電氣聯合局又ハ地方當局ハ、特別法又ハ命令ニヨリ明文ヲ以テ認可サレタル場合ニ非ラサレ

ハ電氣附屬品ヲ製作スルコトヲ得ス

第二 電氣聯合局又ハ地方當局ハ、左記ノ者ヲ除ク外電氣附屬品ノ賣渡ヲナスコトヲ得ス

(イ) 電氣聯合局又ハ地方當局ヨリ電氣ノ供給ヲ受ケントスル需用者又ハ個人

(ロ) 電氣聯合局又ハ地方當局ヨリ電氣ノ供給ヲ受クル者又ハ受ケントスルモノニ對シテ販賣ヲ
ナスタメ電氣附屬品ヲ要求スル契約者

第三 電氣附屬品ノ賣渡ニ對シ、電氣聯合局又ハ地方當局ノ課スヘキ價格ハ公認小賣値ヨリモ低廉
ナラサルコトヲ要ス、但シ契約者ニ對シテ之ヲ賣渡ス場合ニハ公認卸値ヨリモ低廉ナラサルコト
ヲ要ス、電氣附屬品ノ公認小賣値又ハ卸値ニツキ紛争ヲ生シタル場合ニ於テハ後記ノ規定ニヨリ
テ任命セラレタル委員之ヲ裁決ス

第四 前項ノ電氣聯合局又ハ地方當局ハ本節ノ下ニ於テ定メタル料金ヲ適當ニ調節シ本節ノ下ニ於
ケル權利ノ行使ニツキ蒙リタル費用、支出ニ相償ハシムルコトヲ要ス(該費用ハ本節ノ目的ノ爲
メニ借入レタル資金ノ利子並ニ減債基金ヲ含ム)

第五 本節ノ下ニ於テ、電氣聯合局又ハ地方當局カ各年度ニ於テ、收支シタル金額ハ、本節ノ目的
ノタメニ借入レタル資金ノ利子及ヒ減債基金ヲ含メテ該電氣聯合局又ハ地方當局ノ電氣事業會計
報告中ニ各別ニ明示スヘシ

第三條 電氣委員ハ、地方當局タル公許事業者、契約者、並ニ電氣附屬品ノ製作者及ヒソノ販賣業
者ノ組織スル諸組合ノ代表者ヲ以テ委員ヲ任命スヘシ但シ該委員ノ任命ハ該組合ト協議ノ上、行フ
コトヲ要ス、該委員ハ本節ノ下ニ於テ電氣附屬品ノ公認小賣値又ハ卸値ニツキ生シタル紛争ヲ裁決
シ、當該關係者ニ對シ本節規定ノ履行方法ニツキ助言並ニ助力ヲ與フルモノトス

第四條 本節ノ目的ハ、電氣聯合局又ハ地方當局ノ資金ヲ借入ナシ得ヘキ目的ト看做ス

第五條 本節ニ於テ契約者トハ、電氣附屬品ノ販賣並ニ取付業ニ従事セルモノ、謂ナリ

第四十九節 瓦斯事業者ニ關スル特別規定

第一條 瓦斯事業ノ所有者カー一八八二年乃至一九二二年電氣(供給)法又ハ一九二五年法定瓦斯會社
(電氣供給權)法ノ規定ノ下ニ於テ、特別命令ヲ申請シタル場合電氣委員ニ於テ該命令ヲ發スルコト
ヲ能ハサルカ、若ハ欲セサルトキハ、電氣委員ハ之ヲ交通大臣ニ附議スヘシ、該大臣ハ、特別命令
ノ確認ニ適用サルヘキ手續ヲ規定セル一九一九年電氣(供給)法ニ準據シ、ソノ適當ト認ムル場合ニ
於テ該命令ヲ發スルコトヲ得

前項ニヨリテ發セラレタル命令ハ、電氣委員ニ於テ發シ交通大臣ノ確認シタル命令ト同一ノ效力ヲ
有ス

第五十節 雜修正

六四

第一條 本法第六附則第二段ニ掲ケタル修正（雜修正ニ關スルモノ）ハ同附則第一段ニ掲ケタル一八八二年—一九二二年電氣（供給）法ノ規定ニツキ、行フヘキモノトス

總 則

第五十一節 字句ノ解釋

第一條 法文前後ノ關係ニテ別箇ノ意義ヲ示サ、ル限リ、本法ノ目的ノタメ、左記ノ字句ハ次ノ如ク解釋スヘシ

「發電所」トハ一九一九年電氣（供給）法第卅六節ニヨリテ與ヘラレタル意義ニシテ一九〇九年電燈法第廿五節ニヨリテ與ヘラレタル意義ニ非ス

「送電線路」トハ、ソレカ一九一九年電氣（供給）法ノ意味スル送電幹線路ニ關シテ用ヒラレタルトキハ該送電幹線路ノ定義中ニ記サレタル全工作物ヲ包含ス、尙ソレカ、前項ノ送電幹線路以外ノ線路ニ關シテ用ヒラレタルトキハ、送電線路ノ制御及ヒ該線路ニヨル送電ニ必要ニシテ且使用セラル工作物及ヒ該工作物ノ調節設備トシテ必要ナル建設物又ハ建設物ノ一部ヲ包含ス、發電所ニ關

聯シテ用ヒラレタル「所有者」トハ、發電所ノ賃借者又ハ占有者ニシテ該發電所ノ運轉ヲ行ヘルモノヲ包含ス

「公許事業者」ナル語ハ、電氣聯合局ヲ包含ス

「地方當局」ナル語ハ一九〇九年電燈法第八節又ハ之ト同ジ目的ノタメニ公布サレタル特別法ニヨリテ、組織サレタル聯合局又ハ聯合委員ヲ包含ス

「否認ノ絕對權」トハ、公許事業者カ法令ニヨリテ附與セラレタル無資格權ノ謂ニシテ、電力會社カ特定地域ニ於ケル公許事業者ノ同意ナクシテ行フ電氣ノ供給ヲ制限スルモノヲ云フ（但シ鐵道、軌道、運河、航行、船渠又ハ港灣或ハ其他ノ水利業ノ爲メニスル電氣ノ供給權ハ此ノ限リニ非ス）

第二條 公許事業者カ局ヨリ電氣ノ供給ヲトル他ノ公許事業者ニヨリ、電氣ノ供給ヲ受クル場合ニ於テハ前者ハ本法ノ目的上、局ヨリ間接ニ電氣ノ供給ヲ取ルモノト看做ス、之ニ對シテハ、局ヨリ間接ノ供給ヲ取ルコトニ關スル本法ノ規定ヲ準用ス

第三條 電氣ノ供給料金カ本法ノ下ニ於テ、負荷率ニヨリテ、調節サルヘキ發電費タル限リ、ソノ調節サレタル料金ハ、左ノ項目ヨリナル金額タルヘシ

（一）各會計年度ノ各月ニ於ケル最大需用「キロワット」ニ「キロワット」當リ、固定費率ヲ乘シタル

六五

モノ

(二) 各年度ニ於テ事業者ニ供給シタル單位數ニ運轉費率ヲ乗シタルモノ本條ノ目的上

或月ニ於ケル最大需要「キロワット」數トハ、ソノ月ニ於テ事業者ニ引續キ卅分間供給セル電氣ノ最大單位數ヲ二倍シタル數値トス

但シ前項ノ最大需要「キロワット」數カ同年度中之ニ先立ツ何レカノ月ノ最大需要「キロワット」數ヨリモ低少ナルトキハ後者ニ基キテ支拂ヲナスコトヲ要ス

「キロワット」當リ固定費率並運轉費率ハ本法第七附則ノ規定ニヨリテ算定スルモノトス

第四條 電氣ノ供給料金カ本法ノ下ニ於テ、力率或ハ其他ノ方法ニヨリテ調節サル、モノタル限り、ソノ調節又ハ算定ハ電氣委員ノソノ爲メニ定ムヘキ規程ニ準シテ之ヲ行フコトヲ要ス

第五條 局ヨリ數ヶ年以上電氣ノ供給ヲ取ルノ費用ヲ本法ノ目的上算定スルノ必要生シタルトキ、コレカ算定ニ際シテハ燃料ノ價格及ヒ勞銀ヲ恒數トシテ取扱フヘシ

第五十二節 單稱、構成及ヒ範圍

第一條 本法ハ一九二六年電氣(供給)法ト稱ス、本法ハ一八八二年乃至一九二二年電氣(供給)法

ノ一トシテ構成ス、前項諸法及ヒ本法ハ一八八二年乃至一九二六年電氣(供給)法ト稱ス

第二條 本法ハ北方愛蘭土ニ對シテハ適用セス

附 則

第一附則 發電所及ヒ送電幹線路ノ買收ニ關スル規定

發電所又ハ送電幹線路ノ價格ハ該發電所又ハ送電幹線路ノ施設ニ適當ニ要シタル支出額及ヒ之ニ附帶セル支出額中ヨリ特別命令ノ定ムル率ニ基キ減價見積額ヲ控除シタル金額ニシテ電氣委員ノ任命セル會計検査官ノ認證シタルモノヲ以テス

但シ前項發電所送電幹線路ノ所有者又ハ局ニ於テ前項會計検査官ノ認證シタル價格ヲ不服トスル場合ニ於テ別段ノ協定ナキトキハ該係争事件ハ本法第四節ノ下ニ於テ調製セラレタル適當ノ名簿中ヨリ交通大臣ノ任命セル辯護士(蘇格蘭土ニ於テハ Advocate)ノ仲裁ニ依リテ決ス

該仲裁官ハ適當ト認ムルトキハ一名若クハ其以上ノ資格アル鑑定官ノ助力ヲ求メソノ助力ニヨリテ該事件ノ一部又ハ全部ヲ聽取スルコトヲ得

第二附則 指定發電所ニ於ケル發電費ノ決定ニ關スル規程

指定發電所ニ於ケル發電費ハ各會計年度ニ於ケル左記ノ費用、課金及ヒ控除金ノ計算ニヨリテ算定ス

ハシ

- (一) 燃料、石油、水及ヒ必需品ノ消費額、職員雇員ノ給料賃金及ヒ退職料及保險料、修繕及ヒ維持費、資本勘定ニ繰入レラレサル更新費
- (二) 發電所ノ諸賃借料、諸課税金(營業利益税ヲ除ク)及ヒ保險料
- (三) 發電所ニ振當テラルヘキ適當ナル割合ノ管理費及ヒ一般開業費
- (四) 發電所ノ收入勘定ニ振當ラルヘキ其他ノ支出
- (五) 資本ノ目的ノ爲ニ適當ニ支出サレタル金額(資本ヨリ支出サレタルト收入ヨリ支出サレタルトヲ間ハス)ニシテ發電所及ヒ發電作業ニ附隨シ此ノ目的ノ爲ナニ使用セラレタル支出金ノ利子(資本ヨリ支拂ハル、利子ヲ除ク)發電所及ヒ發電作業ニ振當ツルヲ適當トスル流動資本ノ利子前項ノ利子歩合ハ左記ノ通り定ム
- (イ) 指定發電所ノ所有者カ電氣當局又ハ地方當局ナルトキハ其ノ目的ノ爲ニ借入レタル金額ニ對シ支拂ハルヘキ平均利率
- (ロ) 指定發電所ノ所有者カ會社ナルトキハ會社カ前年度ニ於テソノ資本株及ヒ社債ニ對シテ支拂ヒタル配當金及ヒ利子ノ平均歩合、但シ前項ノ利率ハ一ケ年五分以上六分五厘以下タルコトヲ要ス

(六) 左記ノ金額ヨリ成ル減價償却費

- (イ) 指定發電所ノ所有者カ電氣聯合局又ハ地方當局タル場合ニ於テハ該發電所及ヒソノ設備ニ振當ツルヲ適當トスル減價償却基金ト同一金額
- 但シ前項支出ノ一部カ公債以外ノ資金ヲ以テ支辨サレタルトキハ電氣委員ニ於テ適當トスル金額ヲ前項減價償却費ニ追加スルコトヲ要ス
- (ロ) 指定發電所ノ所有者カ會社タル場合ニ於テハ特別命令ノ定ムヘキ率ニ基キテ算定セル金額
- 但シ前項ノ會社カ一九二五年倫敦並ニ近郊諸州電氣區域法ノ意味スル會社ナルトキハ前項ノ減價償却費ハ一九二五年ノ倫敦電氣(第一)法又ハ一九二五年倫敦電氣(第二)法ノ規定ノ下ニ該會社ノ義務トセラレタル減價基金ニ對シ該會社カソノ年度ニ於テ繰入タル金額以下タルコトヲ得ス

第三附則 公許事業ハ大口供給ヲナスニツキ使用セラレ、送電線路

ノ公定諸費用並ニ控除金

公許事業者カ他ノ公許事業者ヘ大口供給ヲナスニツキ用フル送電線路ノ費用並ニ控除額ハ左記ノ如ク定ム

- (一) 送電線路ノ維持費(資本勘定ニ振込マレサルソノ更新費ヲ含ム)

- (二) 送電線路ノ諸賃借料、諸課税金(營業利益税ヲ除ク)及ヒ保險料
- (三) 送電線路ニ振當テラルヘキ適當ナル割合ノ管理及ヒ一般設立費
- (四) 供給ヲ與フル發電所又ハ變電所ヨリ供給ヲ取ル發電所又ハ變電所ニ至ル送電中損失シタル電氣費

(五) 送電線路ノ收入勘定ニ振込マルヘキ其他ノ支出

(六) 資本ノ目的ノ爲ニ適當ニ支出サレタル金額(資本ヨリ支出サレタルト、收入ヨリ支出サレタルトヲ問ハス)ニシテ送電線路ニ屬スヘキ支出金ノ利子

送電線路ニ振當ツルヲ適當トスル流動資本ノ利子

前項ノ利子歩合ハ

(イ) 送電線路ヲ所有セル公許事業者カ電氣聯合局又ハ地方當局ナルトキハ該線路建設ノ爲メニ借入レタル金額ニ對シ支拂ハルヘキ平均利率

(ロ) 送電線路ヲ所有スル公許事業者カ會社ナルトキハ會社カ其ノ前年度ニ於テ支拂ヒタル配當及ヒ利子ノ平均歩合但シ前項ノ利率ハ一ケ年五分以上六分五厘以下タルコトヲ要ス

(七) 左記ノ金額ヨリ成ル減價償却費

(イ) 送電線路ヲ所有スル公許事業者カ電氣聯合局又ハ地方當局ナルトキハ該線路ニ振當ツルヲ

適當トスル減價償却基金ト同一金額

但シ前項送電線路ノ建設費ノ一部カ收入ヲ以テ支辨サレタルトキハ電氣委員ノ適當トスル金額ヲ前項ノ減價償却費ニ追加スルコトヲ要ス

(ロ) 送電線路ヲ所有スル公許事業者カ會社ナルトキハ特別命令ノ定ムヘキ率ニ基キ算定セル金額

但シ前項ノ會社カ一九二五年倫敦並ニ近郊諸州電氣區域法ノ意味スル會社ナルトキハ前項ノ減價償却費ハ一九二五年倫敦電氣(第一)法又ハ一九二五年倫敦電氣(第二)法ノ規定ノ下ニ該會社ノ義務トセラレタル減價基金ニ對シ該會社カソノ年度ニ於テ繰入レタル金額以下タルコトヲ得ス

送電線路カ二以上ノ公許事業者ヘノ大口供給ニ用ヒラルルトキ又ハ送電線路ノ一部カ大口供給ノタメニ用ヒラレ他ノ一部カ其ノ他ノ目的ニ用ヒラルルトキハコレカ諸費用並ニ控除金ハ前記諸費並控除金ノ適當ナル割當テヲ以テナスヘシ

第四附則 一九二二年電氣(供給)法第廿一節ニヨリ修正サレタル

一九一九年電氣(供給)法第十六節ノ改正

本法ノ下ニ於テ又ハ本法ノ結果トシテ發電所カ閉鎖又ハ買收サレタルトキ又ハ該發電所ノ作業又ハ使

用ニ制限ノ加ヘラレタルトキ送電幹線路又ハ其ノ一部カ買収サレタルトキヨリ五ヶ年以内ニ於テ該閉鎖買収又ハ制限負課ノ以前ニ公許事業者ノ常規使用人タリシ職員又ハ雇員カ労働大臣ノ任命セル審判官又ハ審判委員ニ對シソノ満足スル迄該閉鎖、買収又ハ制限ノ結果ヲ立證シタル時ハ

(イ) 自己ノ不仕末、無能力、又ハ老朽ノ理由ニ依ラスシテ、失職、減俸、賃銀、報酬ノ減額ヲ受ケタルコト

(ロ) 前記ノ閉鎖又ハ買収又ハ制限ノ行ハレサリシ以前ニ於テ遂行ヲ要求セラレタル職務ニ類似セス又ハ之ニ對シテ不合理ナル負擔ヲ追加スル職務ノ遂行ヲ要求セラレタルコトニヨリ辭職シタルコト

(ハ) ソノ勤務條件ニ關シ以前ヨリモ不利ナル状態ニ置カレタルコト(該勤務條件ハ在職期間、報酬、慰勞金、年金老朽淘汰、疾病及其他ノ積立金又ハ其他ノ利益又ハ慣習ニヨリテ給與セラル、モノヲ含ム)

而シテ(一)發電所ノ閉鎖セラレタル場合又ハソノ作業或ハ使用ニ對シテ制限ノ加ヘラレタル場合ニ於テハ該發電所ヲ所有セシ公許事業者又ハ現ニ之ヲ所有セル公許事業者

(二)或ハ發電所又ハ送電幹線路又ハ其ノ一部カ買収セラレタル場合ニ於テハ買収當局カ發電所ノ閉鎖或ハソノ作業又ハ使用ノ制限或ハ發電所又ハ送電幹線路又ハ其ノ一部ノ買収ノ行ハレタル當時ト同一

條件ヲ以テソノ職員又ハ雇員ニ對シ同等ノ職ヲ與ヘ得ヘキコトニツキ審判官又ハ審判委員ノ満足スル迄立證スルコト能ハサリシトキハ該公許事業者又ハ買収當局ハ該職員又ハ雇員ニ對シ審判官又ハ審判委員ノ定ムヘキ賠償金ヲ支拂ヒ之ト共ニ他ニ轉業スルニ付當然失ハレタル費用ヲモ支拂フ事ヲ要ス但シ失職又ハ辭職ノ之ニ加ハル場合ニ於テソノ者カ年俸ヲ受クル職員ナルトキハ前項ノ賠償金ハ一八八八年地方自治法通過ノ當時效力ヲ有セシ文官服務法及ヒ規則ノ下ニ於テ廢官者ニ對シテ支拂フヘキ給與金ヲ基礎トシ且之ヲ超過セサル範圍ニ於テ定ムヘシ

但シ前項職員ノ在職年限ヲ算定スルニ際シテハ該職員カ他ノ公許事業者ノ下ニ於テ在職シタル年限ヲ其ノ失職シ又ハ辭職セル公許事業者ノ下ニ於テ在職シタルモノト看做スヘシ

前項ノ職員又ハ雇員カ戰時中陸海軍ニ服役又ハ聯盟國軍ニ從軍シ又ハ其他戰時中ニ於テ國家的重要ノ服役ヲナスノ間一時其職務ヨリ離レタルトキハ該服役期間ヲソノ離職ノ直前直後ニ於テ奉職セシ公許事業者ノ下ニ於テ在職シタルモノト看做スヘシ

本法ノ下ニ於テ又ハ本法ノ結果ニヨリテ發電所ノ閉鎖又ハ其作業又ハ使用ノ制限ニツキ紛争ヲ生シタルトキハ電氣委員之ヲ裁決ス

労働大臣ハ本附則ノ下ニ於ケル審判官又ハ審判委員ノ手續ニ關シ規則ヲ設クルコトヲ得
前項ノ規則中左記ノ規定ヲ設クルコトヲ得

- (一) 經費ノ制限及ヒ之ニ對スル課税ノ規定
- (二) 審判官又ハ審判委員ノ各員ニ對シテ支拂ハルヘキ報酬及ヒ其ノ支拂ヲナス當事者ノ決定ニ關スル規定

第五附則 一八八九年電燈法附則ノ修正

第四節第一項ノ『事業者ハ』ヨリ『最大利潤率』ニ至ル條文ヲ左記ノ如ク改ム

『事業者ハ或ル年度ニ於ケル純剩餘金及ヒ規定ノ限度ニ達シタル準備繰越金ヲ左記ノ目的ニ充當スヘシ』

- 一、電力供給料金ノ削減
- 二、電氣事業ノタメニ借入ルヘキ資本ノ減少
- 三、電氣委員ノ同意ヲ以テ資本ヘ振當ツベキ經費ノ支拂
- 四、地方税ノ補助、但シ或ル年度ニ於テ(イ)地方税ノ補助ニ充當サルヘキ金額ハ事業ノ未拂負債額ノ一分五厘ヲ超ユルコトヲ得ス

(ロ)一九三〇年三月三十一日以後ニ於テハ地方税ノ補助トシテ前項ノ金額ヲ充當スルコトヲ許サス

但シ準備金カ事業ニ投下サレタル總資本額ノ廿分ノ一以上ニ達シタルトキハ此ノ限リニ非ス

第十四條第一項a『一ヶ月』ノ後ヘ『又ハ送配電線ノ場合ニ於テハ七日』ヲ挿入ス

第六附則 一八八二年電氣(供給)法ノ雜修正

修正サルヘキ法名

一八八二年電燈法第三節

修正事項

第五項ノ『前項ノ廣告ヲ初メテ公示シタル日ヨリ三ヶ月ノ期間満了シタル後ニ非ラサレハ又ハ』ヲ削除ス

一九一九年電氣(供給)法第一節

第七條ノ『退職』ノ後ヘ『又ハ死亡』ヲ挿入ス

第十三節

第二條ノ『地方當局ノ地域ヲ包含セル』ノ後『又ハ本法第七節ノ下ニ於ケル修正命令ニヨリ』ヲ挿入ス

第十五節

第一條c項ノ後ヘ左ノ條文ヲ挿入ス

(cc)法定給水事業者カソノ事業ノ目的上使用セル貯水池又ハ其他ノ給水工作物ヨリ引水スルコトヲ認可スヘキ命令ハ該事業者ノ同意ナクシテ之ヲ下スコトヲ得ス(但シ何等ノ理由ナクシテ之レカ同意ヲ拒否スルコトヲ得ス)

前項ノ同意拒否ノ理由又ハ同意ヲ與フルコトニ附スヘキ條件ニ關シ紛争ヲ生シタルトキハ該紛争ハ高等法院長又ハ蘇格蘭士大審院

長ノ指定スル仲裁官ニ之ヲ附議ス

前項ノ命令中ニハ保健大臣(或ハ蘇格蘭土保健局)ニ於テ給水消費者ノ利益ヲ保護スルタメニ必要ナル規定ヲ挿入スヘシ

一九一九年電氣(供給)法第廿一節 本節ニ於ケル最始ノ「地方當局」ナル語句ノ後ニ「(州會ヲ含ム)」ナル語句ヲ挿入ス

次ノ「地方當局」ナル語句ノ後ニハ「及ヒ(州會ニ屬スル州橋梁又ハ主要道路ニ沿ヒ又ハ之ヲ横斷スル電線設置ノ提案カナサレタルトキハ)州會ハ」ナル語句ヲ挿入ス

第三十二節 第三條ノ「本法第七節ノ下ニ於ケル命令ナラサルトキハ、特別命令タルヘシ而シテ……」ナル語句ヲ削除ス

一九二二年電氣(供給)法第廿一節 第一條ノ「原法ニ於テナサレサル……ハ該原法ノ結果トシテ……」ナル語句ハ「原法ニ於テ又ハ該原法ノ結果トシテナサレ……」ナル語句ニ改ム

第二十四節

左ノ但書ヲ挿入ス

但シ前項ノ供給ヲ使用スルニ際シテハ郵便大臣ニ屬シ又ハ郵便大

臣ノ使用セル電信線又ハ之ヲ原因トシテ電信線ニ妨害(誘導又ハ其他ノ作用ニヨリ)セス、又ハ妨害スル惧ナキ方法ヲ取ルヘシ
本規定ハ左ノ事業又ハ其一部ニ對シテハ適用セス

一 議會法又ハ議會法ノ確認シタル命令又ハ議會法ト同様ノ效力アル命令(電氣ノ使用ニ關シ郵便大臣ノ電信線保護規定ヲ包含スルモノ)ノ下ニ於テ電氣ノ使用ヲ認可サレタル會社又ハ當局ノ事業又ハソノ一部

本節ノ「電信線」ナル語ハ一八七八年電信法ニ於ケルト同一ノ意味ヲ有スルモノトス

第七附則 「キロワット」固定費率及ヒ運轉費率ノ決定ニ關スル規定

第一條 發電費ハ本法第二附則ノ規定ニ準據シテ算定スヘシ

第二條 前條ノ如クシテ算定サレタル發電費ハ、電氣委員カ此ノタメニ定ムヘキ規程ニ準據シ之ヲ固定經費ト流動經費トニ割當ヘシ

第三條 「キロワット」固定費率トハ各會計年度ニ於ケル固定經費額ノ十二分ノ一ヲ該年度ニ於ケル月別最大需要量ノ平均ニヨリテ分割シタルモノトス

但シ電氣委員ハ最大需要量ニ應ジツノ定ムル規定ヲ以テ適宜之カ増減ヲナシ以テ「キロワット」固
定費率ヲ定ム

本規定ノ目的上或月ニ於ケル最大需要量トハ、其ノ月ニ於テ發電所ヨリ引續キ卅分間供給セラレタ
ル電氣ノ最大「キロワット」ヲ二倍シタルモノト見做ス

但シ前項ニヨリテ算定セラレタル或月ノ最大需要「キロワット」カ同年度中其前月最大需要「キロ
ワット」數ヨリモ低少ナルトキハ後者ノ最大需要「キロワット」數ヲ以テ前者ノ月ニ於ケル最大需
要「キロワット」數トナスヘシ

第四條 運轉費率トハ流動經費額ヲソノ年度ニ於テ發電所ヨリ供給シタル「キロワット」時ヲ以テ除
シタルモノトス

「都市交通問題研究」近刊豫告

大正九年以降本誌「調査資料」に於て、發表せる資料中より、特に都市交通問題に關して有益なる參
考資料を摘出し、之を、都市問題、市街鐵道、乗合自動車、高速鐵道、勞働問題、雜編及び都市交通
統計の七篇に分類整理し、都市の交通問題の重要事項は、總て、包含してあります、現在この種文献
の少なき我日本の都市交通問題の解決に對して有用なる參考資料たるべきは疑なき處です。都市交通
事業に關與せらるゝ官廳、諸會社並びに研究資料として缺くべからざるものであります。
詳細は追つて御知らせ致しますが、其の頒布取扱は電氣協會で致すことになつて居ります。

昭和三年六月

東京市 電氣局 庶務課 調査掛

終